

Ⅱ

履修概要

1	入学から卒業まで	16
2	履修登録	32
3	授業	34
4	単位制	39
5	学習成果	43
6	学修支援情報システム	49
7	学籍・修業年限・学費	52
8	学生サポート	56

1 入学から卒業まで

お茶の水女子大学では、確かな未来を担う人間を育成するために、学生が自律性と協調性を育み、論理的思考力と創造的探究心を習得できるよう、さまざまな教育方法を取り入れています。

とくに教育の基本をなす教養教育の特色は、「堅固な基礎的知識」の教授と「21世紀型リベラルアーツ教育」ですが、本学のリベラルアーツ教育は、問題を発見し、それを解決する能力を習得するお茶の水女子大学固有の教育プログラムで、既存の学問分野を越えた知識と学問の手法を提供します。

また、専門教育では、一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応できるよう、それぞれの学部・学科ごとにプログラムを設けた「複数プログラム選択型」教育を平成23年度から新設致しました。より一層、学修の効果を期待しています。

本学では、上記目標を達成するために、1「コア科目」、2「専門教育科目又は専攻科目・関連科目等」、3「自由に選択して履修する科目」の大きく3つの学習区分が設定されており、その中で必修科目・選択科目が配置されています。

なお、学生は本学に原則として4年以上在籍し、各自の所属する学部のガイドラインに従って、124単位以上（生活科学部食物栄養学科については、138単位以上）の卒業要件単位を充足してください。

【学部・学科の構成】

文教育学部	人文学科	哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コース
	言語文化学科	日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コース
	人間社会学科	社会学コース、教育科学コース、心理学コース
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学コース、音楽表現コース
	人文学科・言語文化学科・人間社会学科 グローバル文化学環	
理 学 部	数学科	
	物理学科	
	化学科	
	生物学科	
	情報科学科	
生活科学部	食物栄養学科	
	人間・環境科学科	
	人間生活学科	発達臨床心理学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座

(1) コア科目

コア（core）とは芯という意味です。コア科目は、これからの学修・研究における社会的関心が高く現代世界を理解するうえで重要と思われる問題領域や視点を核とし芯（コア）となるべきものを、学生が主体的に模索し育成する際の一助となるよう設定されています。科目として、**文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語、スポーツ健康**に区分されます。（参考）文教育学部－文教育学部履修規程P.213、理学部－理学部履修規程P.234、生活科学部－生活科学部履修規程P.247

① 文理融合リベラルアーツ

文理融合リベラルアーツは、文系理系にまたがる5つのテーマ；生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダーにそって、講義・討論・発表・実験・実習・演習を組み合わせた系列科目群がつくられており、自然科学・人文科学・社会科学の3つの角度から多面的に学ぶ授業です。

これにより、高度な専門教育を支え、使いこなすための領域横断的な視野、変化に対応する判断力、発信・交渉能力など、生涯をととして、自在（リベラル）に使える技（アーツ）を育成します。各系列の授業科目には、「講義」と「演習・実習・実験」の2種類があり、これを組み合わせて、知識と実践力を高めます。「講義」は隔年で、「演習・実習・実験」は毎年同

じ科目が開講され、2年間で1クールとして、当該系列の科目が開講されます。「講義」では、テーマに立脚した課題学習を通じて、学問分野の基本を習得するとともに、自然・人間・社会の関係や相互作用を多面的に理解することを目的にします。「演習・実習・実験」は、少人数の演習形式で行われ、文献講読、実地調査、口頭発表など担当教員によって異なりますが、教員を含めたディスカッションを交えることを原則とした半期編成の授業です。聞き・読み・書き・

語り・計り・作るという作業を通じて、思考力やコミュニケーション力を養成します（いずれも2単位）。「演習・実習・実験科目（各系列の科目番号が20番台のもの）」は、少人数の演習形式で行われる半期演習科目であり、原則として1科目20名を定員とし、各年度の初めに、Web抽選申請入力（第3希望まで申請することができる）にもとづいて決定します。希望者が定員を超えた科目は抽選とし、その際は1年次の履修希望者を優先します。初回のオリエンテーションに出席し、所定の期日までにWeb抽選申請入力を済ませてください。

系列の科目を5科目（10単位）以上履修した者には、申請に基づき、成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。

文理融合リベラルアーツ科目は、原則として月、水曜の1・2限、3・4限、金曜の3・4限に開講され（演習科目は、月曜または水曜の3・4限の前期）、1～2年次に受講しやすいように設計されています。しかし、受講年次については、制限を設けていないので、3～4年次も含めて計画的に履修できます。

科目一覧

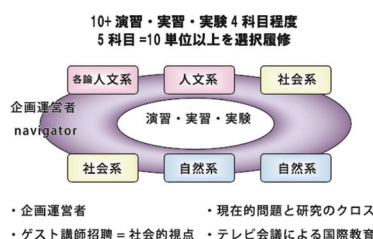
系列1 生命と環境		系列2 色・音・香		系列3 生活世界の安全保障		系列4 ことばと世界		系列5 ジェンダー	
（講義）	（単位）	（講義）	（単位）	（講義）	（単位）	（講義）	（単位）	（講義）	（単位）
生命と環境1	2	色・音・香1	2	生活世界の安全保障1	2	ことばと世界1	2	ジェンダー1	2
生命と環境2	2	色・音・香2	2	生活世界の安全保障2	2	ことばと世界2	2	ジェンダー2	2
生命と環境3	2	色・音・香3	2	生活世界の安全保障3	2	ことばと世界3	2	ジェンダー3	2
生命と環境4	2	色・音・香4	2	生活世界の安全保障4	2	ことばと世界4	2	ジェンダー4	2
生命と環境5	2	色・音・香5	2	生活世界の安全保障5	2	ことばと世界5	2	ジェンダー5	2
生命と環境6	2	色・音・香6	2	生活世界の安全保障6	2	ことばと世界6	2	ジェンダー6	2
生命と環境7	2	色・音・香7	2	生活世界の安全保障7	2	ことばと世界7	2	ジェンダー7	2
生命と環境8	2	色・音・香8	2	生活世界の安全保障8	2	ことばと世界8	2	ジェンダー8	2
生命と環境9	2	色・音・香9	2	生活世界の安全保障9	2	ことばと世界10	2	ジェンダー9	2
生命と環境10	2	色・音・香10	2	生活世界の安全保障10	2	ことばと世界11	2	（演習・実習・実験）	
（演習・実習・実験）		（演習・実習・実験）		生活世界の安全保障11	2	ことばと世界12	2	ジェンダー21	2
生命と環境21	2	色・音・香21	2	（演習・実習・実験）		（演習・実習・実験）		ジェンダー22	2
生命と環境22	2	色・音・香22	2	生活世界の安全保障21	2	ことばと世界22	2	ジェンダー23	2
生命と環境23	2	色・音・香23	2	生活世界の安全保障22	2	ことばと世界24	2	ジェンダー24	2
生命と環境24	2	色・音・香24	2	生活世界の安全保障23	2	ことばと世界25	2		
生命と環境25	2			生活世界の安全保障24	2	ことばと世界27	2		
生命と環境26	2			生活世界の安全保障25	2				
				生活世界の安全保障26	2				

現代世界の鍵となる5つのテーマ

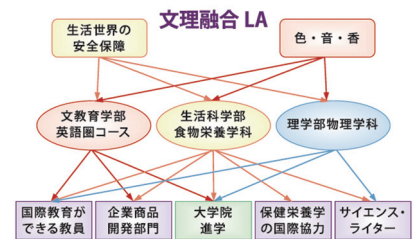
「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる5つのテーマ（生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー）にそって、講義、討論、発表、演習・実験・実習を組み合わせた系列科目群をつくり、自然・人文・社会を通して、読み・聞き・書き・語り・作るという5つの能力を養成します。演習では、テーマに関連するテキスト（書物や論文）を読み、発表・討論し、レポートを書くことで、読解力や表現力を高めます。「生物と環境」や「色・音・香」では、海の生物を採集し観察する実験やおいしさを作り出す実習で、自然の仕組みや生活技術を体感します。「生活世界の安全保障」では、NPOでのインターンシップなどを通して、実践力を養成します。

いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを「切り口」として知識と経験を広げ、主題を根源から理解することがゴールです。

系列科目の構成



履修モデル



② 基礎講義

基礎講義は、大学での勉学や社会生活で必要となる基本を学ぶ科目です。文理融合リベラルアーツの講義科目が課題に沿った学習であるのに対して、基礎講義は学問分野の体系にそって学ぶことで基礎力を育成します。1－2年次に受講しやすいように原則として月、水、金曜の1・2限、3・4限に開講されますが、3－4年次に学ぶことで基礎力を広げることができます。

科目一覧

科 目	単位	科 目	単位	科 目	単位
哲学	2	マクロ経済学入門	2	総合コース	2～4
現代心理学	2	基礎微積分学	2	お茶の水女子大学論	2
法学Ⅰ（日本国憲法）	2	基礎線形代数学	2		
法学Ⅱ（法学入門）	2	統計学	2		
法と文学	2	一般物理学実験	2		
政治学入門	2	一般化学実験	2		
ミクロ経済学入門	2				

③ 情 報

情報教育科目の「メディアリテラシ(1)(2)」では、大学における教育・研究活動で必要となる基本的な情報スキルや知識に加え、自立した人間として知識基盤社会で活躍するために最低限身に付けておきたい情報に関する知識を講義します。

「情報科学(1)(2)」では、情報に関する一般的な知識を講義します。「情報処理学(1)(2)」では、情報処理技術の歴史、現状及びその基盤となる学問等を概説します。「情報処理演習(1)(2)」は、すべての学部学科において1年次第1学期、第2学期の必修科目です。この科目では、現代の情報社会における情報の意味を考察し、情報を取り扱う態度を学びます。また、情報ツールを自ら構築し、使いこなす、各自の専門領域に取り入れる手法を、初歩から学んでいきます。学科を基本としたクラス分けで開講されており、学部ごとに取り扱う題材が異なります。必ず指定されたクラスを1年次に履修してください。複数のクラスを履修することはできません。

「プログラミング演習1」では、一般的なプログラミング言語を用いて、コンピュータプログラミングの基礎を学びます。異なるプログラミング言語を学ぶ複数のクラスが開講され、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や用いるプログラミング言語、定員等については、シラバスを参照してください。

「プログラミング演習2」では、コンピュータプログラミング入門と、コンピュータを使って問題を解くことを考えます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「コンピュータ演習1」では、自分専用のパソコンを使って、コンピュータの活用とプログラミングの初歩を学びます。与えられた環境でプログラミングだけを学ぶのではなく、必要なツールを入手し、自分用のパソコンをカスタマイズすることもあわせて修得します。毎回の授業に、各自がパソコンを持参してください。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「コンピュータ演習2」では、コンピュータにまつわるいくつかのトピックについて学びます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「情報学演習1」及び「情報学演習2」では、情報にまつわるいくつかのトピックについて学びます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

授業科目一覧

科 目	単位	備 考	科 目	単位	備 考
メディアリテラシ(1)(2)	各1		プログラミング演習2	2	定員あり
情報科学(1)(2)	各1		コンピュータ演習1	2	定員あり
情報処理学(1)(2)	各1		コンピュータ演習2	2	定員あり
情報処理演習(1)(2)	各1	文A～文G、理A～理E、生活A～生活D	情報学演習1	2	定員あり
プログラミング演習1	2	定員あり	情報学演習2	2	定員あり

④ 外国語

本学で現在コア科目として開設されている外国語は以下の6言語です。

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

他に文教育学部共通科目として、ギリシャ語、ラテン語、現代スペイン語、現代イタリア語、現代アジア諸語Ⅰ～Ⅳがあります。必修単位として必要な外国語の種類と単位数は、学部・学科別に以下のとおり定められており、各外国語の授業科目の内でも必修単位として認められる科目と認められない科目があります。必修単位に認められる科目は各外国語の授業科目表に＊印または＊＊印で示されています。これらは学部・学科によって異なるので注意してください。また、履修に条件を設けた科目があるので、各外国語の授業科目表の履修条件欄にも注意してください。

授業科目別一覧

学部・学科		必修となる外国語の種類及び単位数
文教育学部	人 文 科 学 科 言 語 文 化 学 科 グ ロー バ ル 文 化 学 環	外国語の必修単位数は 20 単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語を第一言語とし、その中から一つの言語について12単位修得すること。残りの8単位は、他の外国語（第一言語で選択した外国語を除く英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語）から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	人 間 社 会 科 学 科 芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	外国語の必修単位数は 12 単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について12単位修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
理学部	数 学 科 物 理 学 科 化 学 科 生 物 学 科	外国語の必修単位数は 12 単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について12単位修得すること。なお、「専門英語」の「物理英語Ⅰ(2)」(物理学科)、「生物学外書講読」(生物学科)は、コア科目外国語(必修)英語の「中級英語Ⅱ(1)(2)」に充てることができる。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	情 報 科 学 科	外国語の必修単位数は 12 単位である。英語を8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語から修得すること。なお、「専門英語」の「英文講読」は、コア科目外国語(必修)英語の「中級英語Ⅱ(1)(2)」に充てることができる。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
生活科学部	食 物 栄 養 学 科 人 間 ・ 環 境 科 学 科 人 間 生 活 学 科	外国語の必修単位数は 12 単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について12単位修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。

● I 英語

1 授業科目

科 目	単位	対象学年	内 容	履修条件
*基礎英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1	基礎的英語力を充実させる。	同一年度で I・II を連続して履修すること。
*英語コミュニケーション I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1	speaking と writing を中心に基礎的英語力を充実させる。	「基礎英語 I・II」と同時に履修すること。同一年度で I・II を連続して履修すること。
*中級英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2	中級レベルの英語力を充実させる。reading/listening、speaking/writing の2分野から選択して履修する。ただし、speaking/writing は中級英語 I・II のいずれかのみで履修可能。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。同一年度で I・II を連続して履修することが望ましい。
英語コミュニケーション III(1)(2)・IV(1)(2)	各1	2～4	speaking と writing を中心に中級レベルの英語力を充実させる。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
上級英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	3～4	reading、writing を中心として、高度な英語力を充実させる。授業は原則として英語で行われる。	英語12単位以上を*のついた基本科目または所属学科指定の振替科目で修得していること。
上級英語 III(1)(2)・IV(1)(2)	各1	3～4	listening、speaking を中心として、高度な英語力を充実させる。授業は原則として英語で行われる。	英語12単位以上を*のついた基本科目または所属学科指定の振替科目で修得していること。
ビジネス英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2～4	ビジネスに用いられる英語力を養成する。	英語8単位以上を*のついた基本科目で修得していること。同一年度で I・II を連続して履修することが望ましい。
時事英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2～4	時事英語の知識に基づいた英語力を養成する。	
英語プレゼンテーション I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2～4	自分の考えや研究成果を発表するための英語力を養成する。	

- 注) ① * 全学部が学生がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。
- ② * のついていない科目の単位は、特別措置等による認定がない限り、必修単位に充てることができません。
- ③ コア外国語の必修単位に充てることができない科目の単位は、学部・学科により、コア科目の必修科目または自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。
- ④ 科目名の I、III は第1学期・第2学期開講科目、II、IV は第3学期・第4学期開講科目を示します。
- ⑤ 対象学年は、必修単位を満たす外国語として英語を履修する場合の指定です。ただし、英語を必修外国語としない場合でも、履修条件を満たすように履修してください。
- ⑥ 「4 履修に関する特別措置」【P.22参照】に該当し、上位学年の科目の履修を希望する学生は、言語文化学科（英文研究室）の判断で指定されたクラスを履修します。該当する学生は、履修手続きの前に英文研究室（文教育学部1号館419室）に相談してください。

2 クラス編成

科 目	対象学年	編成のされ方	備 考
基礎英語 I(1)(2)・II(1)(2)	1	入学時に受験する TOEFL ITP スコアを基に習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
英語コミュニケーション I(1)(2)・II(1)(2)	1	入学時に受験する TOEFL ITP スコアを基に習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。I と II で全員が speaking、writing の両クラスを履修できるようクラス指定を行う。	
中級英語 I(1)(2)・II(1)(2)	2	1 年次学年末に受験する TOEFL ITP スコアを基に習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	

英語コミュニケーション Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	2～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、過去1年以内に取得した TOEFL ITP のスコアにより調整の上、受講者を決定する。	
上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	3～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、過去1年以内に取得した TOEFL ITP のスコアにより調整の上、受講者を決定する。	特別措置により必修単位を満たす科目として履修する学生に優先権がある。
上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	3～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、過去1年以内に取得した TOEFL ITP のスコアにより調整の上、受講者を決定する。	特別措置により必修単位を満たす科目として履修する学生に優先権がある。
ビジネス英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	2～4	同上	
時事英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	2～4	同上	
英語プレゼンテーション Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	2～4	同上	

注) ① クラス定員は、原則として、英語コミュニケーションⅠ～Ⅳの writing クラスが20名、それ以外のクラスは30名です。

- ② 再履修の必要がある学生は、再履修に関する措置【P.23参照】に従って履修してください。
- ③ 英語を必修外国語としない場合で2年次以降に「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」の履修を希望する場合は、再履修の場合(前項②)と同様の手続きで履修してください。また、1年次学年末に実施する TOEFL ITP テストを受験しておいてください。
- ④ 言語文化学科英語圏言語文化コースの学生が「上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」の履修を希望する場合、各クラスの定員に余裕がある場合のみ受講が可能となります。
- ⑤ 聴講については、クラス定員に余裕がある場合のみ許可します。

3 Advanced Communication Training (ACT) プログラム

学問やビジネスの急速なグローバル化にともない、卒業後大学院に進学するにせよ、一般企業に就職するにせよ、みなさんには英語の運用能力、特に話したり書いたりすることで自分の考えを発信する能力が強く求められています。特に、在学中に留学を目指しているみなさんは、早期からこのような実践的英語運用力を高めておく必要があります。ACTプログラムは、全学共通科目である「Advanced Communication TrainingⅠ～Ⅵ」を核とし、さまざまなレベルの実践的な英語科目をプログラムとして提供することで、このようなグローバル化の必要性に応えるものです。

・「Advanced Communication TrainingⅠ」、「同Ⅱ」は、特に留学を目指しているみなさんを対象に開講される科目で、留学における研究計画や研究報告をネイティブ・スピーカーの教員の指導の下に英語でまとめ、英語で発表します。

・「Advanced Communication TrainingⅢ」、「同Ⅳ」、「同Ⅴ」、「同Ⅵ」は、主に大学院への進学を目指しているみなさん、また国際機関や外資系企業への就職を目指しているみなさんを対象に開講される科目で、ネイティブ・スピーカーの教員と相談のうえ特定の研究テーマを決め、それについて英語で学び、研究成果を英語で発表します。

ACTプログラムは、これらを含む下記の表の中の授業科目から合計12単位を修得することにより、プログラムの修了証を取得できるとともに、成績証明書に Advanced Communication Training Program の修了を明記できる制度です。なお、このプログラムを修了した学生には、本学の大学院に進学した場合、コア外国語(英語)科目のティーチング・アシスタントを務める資格が与えられます。また、ACTプログラムへの登録手続きを行い、プログラム科目2単位以上を修得した学生は、卒業までの間に TOEFL iBT または IELTS を2回まで無料で受験することができます。

各授業科目は標準的な履修年次と履修条件を定めていますが、授業についていく英語力さえあれば1年次から履修できる科目もありますので、ぜひ積極的にこのプログラムに参加し、4年間を通じて実践的な英語力を高めてください。

ACTプログラムへの参加希望者は教務チームで登録手続きを行ってください。

Advanced Communication Training Program

	単位	授業科目	標準 履修年次	履修条件	
CB	2 (選択必修)	Advanced Communication Training I (ESA)	1～4	履修希望者が定員 (20 名) を越えた場合、過去 1 年以内に取得した TOEFL ITP のスコアで選抜を行う。	I～Ⅵから 4 単位を必ず 修得すること
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training II (ESA)			
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training III			
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training IV			
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training V			
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training VI			
	2 (選択)	Summer Program in English I		なし (定員 20 名)	
	2 (選択)	Summer Program in English II			
	2 (選択)	Summer Program in English III			
	2 (選択)	Summer Program in English IV			
	2 (選択)	Summer Program in English V			
	2 (選択)	Summer Program in English VI			
SB	各 1 (選択)	上級英語 I (R/W) (1)(2)	3・4	コア英語 12 単位以上を修得していること (コア外国語 (英語) の「履修条件」を参照)	
	各 1 (選択)	上級英語 II (R/W) (1)(2)			
	各 1 (選択)	上級英語 III (L/S) (1)(2)			
	各 1 (選択)	上級英語 IV (L/S) (1)(2)			
PT	2 (選択)	Academic Writing A (文系) /B (理系)	3・4	「上級英語」に準ずる	
	2 (選択)	Academic Presentation A (文系) /B (理系)			
	2 (選択)	TOEFL 対策ゼミ R/L *	1～4	履修希望者が定員 (20 名) を越えた場合、過去 1 年以内に取得した TOEFL ITP のスコアで選抜を行う。	
	2 (選択)	TOEFL 対策ゼミ S/W *			
	2 (選択)	IELTS 対策ゼミ R/L *			
	2 (選択)	IELTS 対策ゼミ S/W *			
	各 1 (選択)	時事英語 I (1)(2)	2～4	コア英語 8 単位以上を修得していること (コア外国語 (英語) の「履修条件」を参照)	
	各 1 (選択)	時事英語 II (1)(2)			
	各 1 (選択)	ビジネス英語 I (1)(2)			
	各 1 (選択)	ビジネス英語 II (1)(2)			
	各 1 (選択)	英語プレゼンテーション I (1)(2)			
	各 1 (選択)	英語プレゼンテーション II (1)(2)			

以上から 12 単位修得で修了証発行

ESA = English for Study Abroad, CB = Contents-Based, SB = Skill-Based, PT = Practical Training

*卒業単位に含めることができない

4 履修に関する特別措置

1) 入学以前に『実用英語技能検定』(文部科学省認定・財団法人日本英語検定協会主催) 1 級又は準 1 級、TOEIC (財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会主催) 730 点以上のスコアもしくは TOEFL (Educational Testing Service (ETS) 主催) において 550 (PBT) / 213 (CBT) / 79 (iBT) 点以上のスコアを持っている学生に関する措置 (「II-4 単位制」(2)【P.39～41 参照】)

※入学後に本学で実施する TOEFL ITP テストのスコアは対象になりません。

a 入学以前に実用英語技能検定準 1 級、TOEIC730 点以上 815 点未満のスコアもしくは TOEFL550 (PBT) / 213 (CBT) / 79 (iBT) 点以上 580 (PBT) / 237 (CBT) / 92 (iBT) 点未満のスコアを持っている学生

「基礎英語 I (1)(2)・II (1)(2)」及び「英語コミュニケーション I (1)(2)・II (1)(2)」に相当する 8 単位を認定します。残りの必修単位は「中級英語 I (1)(2)・II (1)(2)」で充足させます。ただし、入学時に言語文化学科 (英文研究室) が相応の英語力を有すると判断した場合は、残りの必修単位を「上級英語 I (1)(2)・II (1)(2)」、「上級英語 III (1)(2)・IV (1)(2)」等で充足させることができます。

b 入学時に実用英語技能検定 1 級、TOEIC815 点以上のスコアもしくは TOEFL580 (PBT) / 237 (CBT) / 92 (iBT) 点以上のスコアを持っている学生

「基礎英語 I (1)(2)・II (1)(2)」、「英語コミュニケーション I (1)(2)・II (1)(2)」及び「中級英語 I (1)(2)・II (1)(2)」に相当する 12 単位を認定します。

※上記の条件を充たし、単位認定を希望する者は、所定の期間に教務チームで単位認定の申請をすること。

2) 上記1) の実用英語技能検定、TOEICもしくはTOEFLによる単位認定資格を持たないが、それに相当する英語力を有する学生に関する措置

a 英語を必修外国語として履修する場合

入学時に言語文化学科（英文研究室）の判断で指定された科目を履修し、これらの科目で英語の必修単位を充足させることを認めます。

b 英語を必修外国語としない場合

履修を希望する年度初めに言語文化学科（英文研究室）の判断で指定された科目を履修すること。

3) 1年次終了まで（「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」の単位を修得するまで）に実用英語技能検定1級、TOEFL580（ITPまたはPBT）／237（CBT）／92（iBT）点以上のスコアもしくはTOEIC815点以上のスコアを得た学生に関する措置

次年度の履修手続きの際、「上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」の履修を認めます。なお、英語を必修外国語として履修している場合は、残りの必修単位を「上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」等で充足させることを認めます。

5 再履修に関する措置

再履修が必要となった場合は、教務チームより掲示される方法に従い、再履修の手続きをしてください。文教育学部の学生は文教育学部向け指定クラスで、理学部・生活科学部の学生は理学部・生活科学部向け指定クラスで履修してください。この場合、英語を必修外国語としている学生の履修が優先されます。

●II ドイツ語・フランス語・中国語

[ドイツ語]

1 授業科目

科 目	単位	対象学年	内 容	履 修 条 件
* 基礎ドイツ語 Ⅰ・Ⅱ	各2	1	1年間をかけてドイツ語の文法を詳しく学ぶ。ドイツ語の文法体系はかなりしっかりしているので、1年間の学習を通じて高度なドイツ語の文章の読解が可能になる。	「基礎ドイツ語Ⅲ・Ⅳ」と同時に履修すること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修すること。
* 基礎ドイツ語 Ⅲ・Ⅳ	各2	1	文法練習問題（作文を含む）を多くこなすことによって、文法知識がしっかり身につくようにする。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」と同時に履修すること。同一年度でⅢ・Ⅳを連続して履修すること。
* 基礎ドイツ語（応用） Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1	読み・書き・話し・聞くという総合的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
* 発展ドイツ語 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語と取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
* 発展ドイツ語 Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語と取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅢ・Ⅳを連続して履修することが望ましい。
** 基礎ドイツ語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	外国人講師による簡単な日常会話の演習。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
** ドイツ語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	ドイツ語文法の概略をつかみ、簡単な文章が読めるようにする。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注) ① * 全学部がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。ドイツ語を8単位以上履修する場合は、必ず「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修すること。

** 文教育学部の人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環の学生及び理学部の情報科学科の学生が、第二言語としてドイツ語を8単位未満履修する場合にのみコア科目（外国語）の必修単位に充てることができます。

② 対象学年は、必修単位を満たす外国語としてドイツ語を履修する場合の目安です。

③ 「4 履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科（仏語圏コース室）の判断で指定されたクラスを履修してください。

2 クラス編成

- 1 クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。
- 1 クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3 より高度な授業科目

発展ドイツ語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門教育科目を履修してください。
なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4 履修に関する特別措置

- 1) 入学時に『ドイツ語技能検定試験』（財団法人ドイツ語学文学振興会主催）3級以上に合格している学生に関する措置（「Ⅱ-4 単位制」(2)【P.39～41 参照】）
 - a 3級合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。
 - b 2級以上合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。
- 2) 既にドイツ語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる（準）基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

[フランス語]

1 授業科目

科 目	単位	対象学年	内 容	履 修 条 件
* 基礎フランス語 Ⅰ・Ⅱ	各2	1	フランス語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようになる。	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ」と同時に履修すること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修すること。
* 基礎フランス語 Ⅲ・Ⅳ	各2	1		「基礎フランス語Ⅲ・Ⅳ」と同時に履修すること。同一年度でⅢ・Ⅳを連続して履修すること。
* 基礎フランス語（応用） Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1	読み・書き・話し・聞くという様々な基本的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
* 発展フランス語 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2	基礎を固めつつ、テキストの読解や様々な練習を通じて、フランス語学力の向上を図る。	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
* 発展フランス語 Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	2		「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅢ・Ⅳを連続して履修することが望ましい。
** 基礎フランス語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	外国人講師によるフランス語初歩の会話演習。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
** フランス語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	フランス語文法の概略をつかむ。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注) ① * 全学部 of 学生がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。フランス語を8単位以上履修する場合は、必ず「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修すること。

** 文教育学部の人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環の学生及び理学部の情報科学科の学生が、第二言語としてフランス語を8単位未満履修する場合にのみコア科目（外国語）の必修単位に充てることができます。

② 対象学年は、必修単位を満たす外国語としてフランス語を履修する場合の目安です。

- ③ 「4 履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科（仏語圏コース室）の判断で指定されたクラスを履修してください。

2 クラス編成

1 クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

1 クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3 より高度な授業科目

発展フランス語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門教育科目を履修してください。
なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4 履修に関する特別措置

- 1) 入学時に『実用フランス語技能検定試験』（財団法人フランス語教育振興協会主催）4級以上に合格している学生に関する措置（「Ⅱ-4 単位制」(2)【P.39～41 参照】）
- a 4級合格者：「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。
 - b 3級以上合格者：「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎フランス語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展フランス語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展フランス語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。
- 2) 既にフランス語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる（準）基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

【中国語】

1 授業科目

科 目	単位	対象学年	内 容	履 修 条 件
* 基礎中国語Ⅰ・Ⅱ	各2	1	中国語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようにする。	「基礎中国語Ⅲ・Ⅳ」と同時に履修すること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修すること。
* 基礎中国語Ⅲ・Ⅳ	各2	1	中国語の基礎的な演習を行い、簡単な会話や文章の読解ができるようにする。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ」と同時に履修すること。同一年度でⅢ・Ⅳを連続して履修すること。
* 基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1	簡単な文章の読解を通じて、中国語の基礎を修得する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
* 発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2	標準的な中国語の文章の読解を行う。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
* 発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	2	基礎的な学力を固めつつ、標準的な文章の読解、及び聴解能力を高める。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅢ・Ⅳを連続して履修することが望ましい。
** 基礎中国語会話Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2～4	外国人講師による簡単な中国語会話演習。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修済みであることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
** 中国語初歩Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	中国語の入門を図る。併せて発音や聞き取りの練習も行う。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
中国語リーディング	2	2～4	中国語の読解力を強化する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していることが望ましい。
中国語リスニングⅠ	2	1～2	中国語の聞き取り能力を育成する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅲ」を既に履修していることが望ましい。
中国語リスニングⅡ	2	2～4	中国語の聞き取り能力を育成する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していることが望ましい。
中国語ライティングⅠ	2	2～4	中国語での作文能力を育成する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」または「同Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していることが望ましい。

科 目	単位	対象学年	内 容	履 修 条 件
中国語ライティングⅡ	2	2～4	中国語での作文能力を育成する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」または「同Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していることが望ましい。
中国語 コミュニケーションⅠ	2	2～4	中国語による対話力を育成する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していることが望ましい。
中国語 コミュニケーションⅡ	2	2～4	中国語による対話力を育成する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していることが望ましい。
中国語 プレゼンテーションⅠ	2	1～4	中国語による発信力を育成する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」または「同Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること、または中国語学習歴が2年以上であることが望ましい。
中国語 プレゼンテーションⅡ	2	1～4	中国語による発信力を育成する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」または「同Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること、または中国語学習歴が2年以上であることが望ましい。

注) ① * 全学部 of 学生がコア科目 (外国語) の必修単位に充てることができる基本科目です。中国語を8単位以上履修する場合は、必ず「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修すること。

** 文教育学部の人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環の学生及び理学部の情報科学科の学生が、第二言語として中国語を8単位未満履修する場合にのみコア科目 (外国語) の必修単位に充てることができます。

② 対象学年は、必修単位を満たす外国語として中国語を履修する場合の目安です。

③ 「4 履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科 (中文コース室) の判断で指定されたクラスを履修してください。

2 クラス編成

1 クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

1 クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3 より高度な授業科目

発展中国語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門教育科目を履修してください。

なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4 履修に関する特別措置

1) 入学時に『中国語検定』(日本中国語検定協会主催) 4級以上に合格している学生、『中国語コミュニケーション能力検定』(中国語コミュニケーション協会主催) において250点以上のスコアをもっている学生及び『漢語水平考試験』(中国国家HSK委員会主催) の2級以上に合格している学生に関する措置 (「Ⅱ-4 単位制」(2) 【P.39～41 参照】)

A 入学時に『中国語検定』(日本中国語検定協会主催) 4級以上に合格している学に関する措置

a 4級合格者: 「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。

b 3級以上合格者: 「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語 (応用) Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

B 入学時に『中国語コミュニケーション能力検定』(中国語コミュニケーション協会主催) において250点以上のスコアをもっている学生に関する措置

250点以上400点未満: 「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。

400点以上: 「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語 (応用) Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

C 入学時に『漢語水平考試験』(中国国家HSK委員会主催) の2級以上に合格している学生に関する措置

a 2級合格者: 「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。

b 3級以上合格者: 「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語 (応用) Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

2) 既に中国語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる (準) 基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

●Ⅲ ロシア語・朝鮮語

ロシア語と朝鮮語は、初歩クラスと会話クラスが開講されます。

[ロシア語]

1 授業科目

科 目	単 位	対象学年	内 容	履 修 条 件
＊＊ロシア語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	ロシア語の基礎を学ぶ。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊＊ロシア語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	簡単なロシア語会話の練習。	「ロシア語初歩Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注) ＊＊ 人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語、ドイツ語、フランス語、中国語12単位を＊のついた基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる科目です。

[朝鮮語]

1 授業科目

科 目	単 位	対象学年	内 容	履 修 条 件
＊＊朝鮮語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	朝鮮語の基礎を学ぶ。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊＊朝鮮語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	簡単な朝鮮語会話の練習。	「朝鮮語初歩Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注) ＊＊ 人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語、ドイツ語、フランス語、中国語12単位を＊のついた基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる科目です。

⑤ スポーツ健康

1 スポーツ健康の履修

全学部とも「スポーツ健康実習」2単位が必修です。

2 授業科目

学部	必修科目		自由選択科目					
	スポーツ健康実習		スポーツ科学概論		健康科学概論		生涯スポーツ	
	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次
全学部	2単位	1年次	2単位	1～4年次	2単位	1～4年次	0.5～3単位	1～4年次

注) ① 「生涯スポーツ」の履修単位を「スポーツ健康実習」の単位に替えることは、原則的にはできません。

② 「スポーツ科学概論」、「健康科学概論」、「生涯スポーツ」の単位は、文教育学部の学生は自由選択科目として、理学部、生活科学部の学生はコア科目（「スポーツ健康」の選択科目）として卒業単位の中に含めることができます。

1) スポーツ健康実習

運動やスポーツを通じて健康や体力の維持増進を図り、あわせて自己の身体への理解と関心を深めることを目的とします。前学期は主に体力の維持増進を目的として「共通フィットネス」を履修します。後学期は開講される種目（テニス、バドミントン、ソフトボール、サッカー、ダンス、多種目など）の中から履修する種目を選択します。前・後学期それぞれ2回ずつの講義が含まれます。

自己の体力水準を正しく知ってもらうために、4月と12月に体力診断テストを行います。

なお、傷害あるいは慢性疾患等で運動することができない場合は、軽運動クラスを選択することができます。

2) スポーツ科学概論

人はなぜスポーツをするのか、スポーツは人にどのような影響を与えるのか、というテーマについて、人文・社会科学の視点からと生理学的視点から、それぞれ講義します。

3) 健康科学概論

青年期、成人期を女性として健康に生きるための基本的な知識、考え方を学び、同時に健康をめぐる諸問題に対する関心を深めることを目的とします。

4) 生涯スポーツ

生涯にわたって自らの生活の中に運動やスポーツを取り入れ実践していくことができる基礎的能力を高めることを目的とします。開講する種目は学生からの要望の高い種目が用意されます。各学期の第一週目にガイダンスと受講の受付をします。

(2) 専門教育科目又は専攻科目・関連科目

① 専門教育科目（プログラムに属する科目）

複数プログラム選択履修制度とは、「主プログラム」「強化プログラム」「副プログラム」「学際プログラム」の4つから構成されており、

- －深く専門的な知識を学びたい
- －将来の進路を考えて、幅広くさまざまな分野の知識や技能を身につけたい
- －分野を横断した最先端の学問領域を学びたい
- －国際理解を深めたい

など、学生が自分の目標にあわせて、学部を超えて、さまざまなプログラムを選択的に組み合わせることにより、多様で豊かな学びを構築するための制度です。

「主プログラム」とは

自分の所属する学科から提供される知識や技能の基礎を学ぶプログラムをいいます。

「強化プログラム」とは

専攻した分野をさらに深く、または広く学ぶためのプログラムをいいます。

「副プログラム」とは

自分の専攻した分野と異なる学習プログラムをいいます。

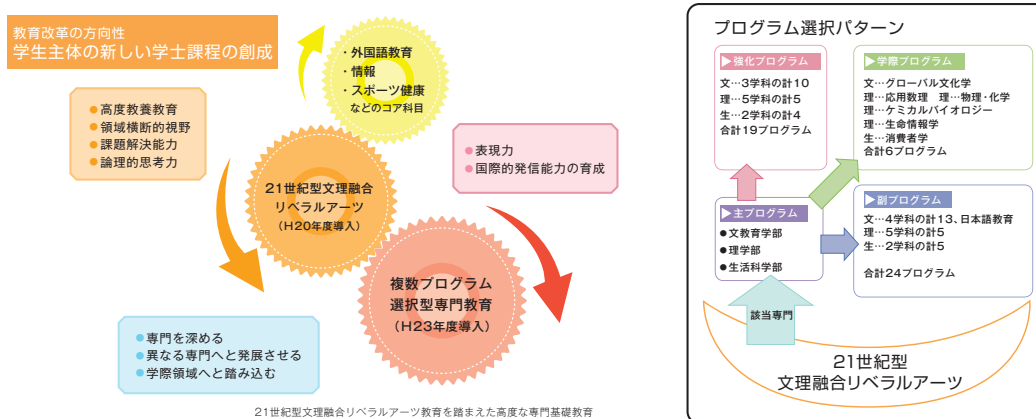
「学際プログラム」とは

さまざまな分野を融合する最先端の知識や技能を学ぶ学際型プログラムをいいます。

皆さんは、自分の目標に合わせてプログラムを設定していくことになりますが、一つ目、二つ目のプログラム（第1、第2プログラム）の設定は、自分の所属する学部、学科の提供するものから選択しなければなりません。また、三つ目のプログラム（第3プログラム）は、それぞれ他学科、他学部の提供する副プログラムや学際プログラムからも選択可能ですので、「Ⅲ 授業科目一覧」を見て確認してください。

また、プログラムの種類・内容及び単位数の関係については、次の表を参照してください。

第1プログラム	必修	主プログラム（自分の所属する学科から選択）
第2プログラム	選択必修	強化プログラム又は副プログラム又は学際プログラム（自分の所属する学部内から選択）
第3プログラム	自由選択	副プログラム又は学際プログラム



○プログラムの種類・内容及び単位数の関係表

プログラムの種類 (提供プログラム)	専門教育			プログラム内容等
	文教育学部	理学部	生活科学部	
主プログラム (20 プログラム)	44 又は 48 単位	60 単位	42 又は 60 単位	各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的で調和的に修得するためのプログラム。提供学科は、文教育学部芸術・表現行動学科及び生活科学部食物栄養学科を除く全学科。
強化プログラム (19 プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	各専門領域をさらに深く、または広く学ぶためのプログラム。提供学科は、文教育学部芸術・表現行動学科、グローバル文化学環及び生活科学部食物栄養学科を除く全学科。
副プログラム (24 プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	学生の多様な能力・適性及び学習意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学習機会を提供するためのプログラム。 <提供学部学科> 文教育学部 14 ・哲学・倫理学・美術史プログラム ・比較歴史学プログラム ・地理環境学プログラム ・日本語・日本文学プログラム ・中国語圏言語文化プログラム ・英語圏言語文化プログラム ・仏語圏言語文化プログラム ・日本語教育プログラム ・社会学プログラム ・教育科学プログラム ・心理学プログラム (A・B) ・舞踊教育学プログラム ・音楽表現プログラム 理学部 5 ・数学プログラム ・物理学プログラム ・化学プログラム ・生物学プログラム ・情報科学プログラム 生活科学部 5 ・人間・環境科学プログラム ・発達臨床心理学プログラム ・公共政策論プログラム ・ジェンダー論プログラム ・生活文化学プログラム
学際プログラム (6 プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	新たな領域融合型ないしは学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人養成に対応するためのプログラム。 <提供学部学科> - 文教育学部グローバル文化学環 ・グローバル文化学プログラム - 理学部数学科、物理学科、情報科学科 ・応用数理プログラム - 理学部物理学科、化学科 ・物理・化学プログラム - 理学部化学科、生物学科 ・ケミカルバイオロジープログラム - 理学部生物学科、化学科、情報科学科 ・生命情報学プログラム - 生活科学部人間生活学科 ・消費者学プログラム

- 注) ① 強化プログラムの履修は、同領域の主プログラムを履修していることが選択の要件です。
- ② 副プログラムは、履修した主プログラムと同領域のものは選択できません。ただし、グローバル文化学を主プログラムとする学生は、所属する学科のいずれかのコース・講座の提供する副プログラムの履修を必修とします。
- ③ 学際プログラムのうち、理学部の提供する4プログラムについては、理系の学生(理学部全学科と生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科)のみ選択できます。

- ④ 文教育学部芸術・表現行動学科と生活科学部食物栄養学科の学生も、副プログラム又は学際プログラムを選択することができます。

プログラムの選択方法

主プログラムは、理系の学生は、入学時点で決定しています。文系の学生は、1年次終了時（1月頃）にWeb申請し、申請者数（第一希望者の数）が受け入れ上限数を上回っている場合は、当該主プログラム提供学科（コース・講座）における選考により決定します。

第2プログラムは、文系理系とも2年次終了時に、Web申請により選択できます。

第3プログラムは、2年次終了以降、随時、Web申請可能です。

専門教育（専攻）科目の履修方法については次の規則や冊子を参照してください。

複数プログラム選択履修制度実施規則 P.212

文教育学部 文教育学部履修規程 P.213及び「文教育学部授業科目履修案内」

理 学 部 理学部履修規程 P.234及び「理学部授業科目履修案内」

生活科学部 生活科学部履修規程 P.247及び「履修の手引き」

プログラム全般について不明な点は、総合学修支援センターに問い合わせてください。

② 文教育学部芸術・表現行動学科と生活科学部食物栄養学科専攻科目・関連科目

文教育学部 芸術・表現行動学科と生活科学部 食物栄養学科は、複数プログラム選択履修制度とは異なる専門教育カリキュラムに従って学習します。なお、芸術・表現行動学科と食物栄養学科で学んでいても副プログラム又は学際プログラムを選択することができます。

(3) 自由に選択して履修する科目・単位

自由に選択して履修する科目は、個々の学生が多様な関心や目的を達成するために、学生が自ら計画し、本学全体のカリキュラムの中から自由に選択履修をする科目です。

具体的には、専門教育科目（必修プログラム）は、プログラムとしてではなく、科目単位でも履修することができ、自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。また、各プログラム修了の必要単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として、卒業に必要な履修単位数に組み入れられます。

(4) 外国人留学生特別科目

●外国人留学生特別科目「日本語演習」、「日本事情演習」、「総合日本語サマープログラム」の単位の取扱い

日本語、日本事情の授業科目については、次の基準によりコア科目の単位として取扱います。

科目区分	学部	コア科目として取扱う単位数の上限		
		【文教育学部】 合計 20 単位	【理学部】 合計 16 単位	【生活科学部】 合計 18 単位
コ ア 科 目 基礎講義（実験を除く）		(6 単位)	(10 単位)	
外 国 語		(16 単位)	(8 単位)	

開設する「日本語演習」、「日本事情演習」、「総合日本語サマープログラム」の授業科目は、次のとおりです。

科目名	単位数	毎週の授業時数	科目名	単位数	毎週の授業時数
日本語演習 I A	2	半期 2	日本事情演習 I B	2	半期 2
I B	2	〃	II A	2	〃
II A	2	〃	II B	2	〃
II B	2	〃	III A	2	〃
III A	2	〃	III B	2	〃
III B	2	〃	IV A	2	〃
IV A	2	〃	IV B	2	〃
IV B	2	〃	V A	2	〃
V A	2	〃	V B	2	〃
V B	2	〃	総合日本語サマープログラム I	2	〃
日本事情演習 I A	2	〃	総合日本語サマープログラム II	2	〃

(5) カラーコードベンチマーク【CCBM】

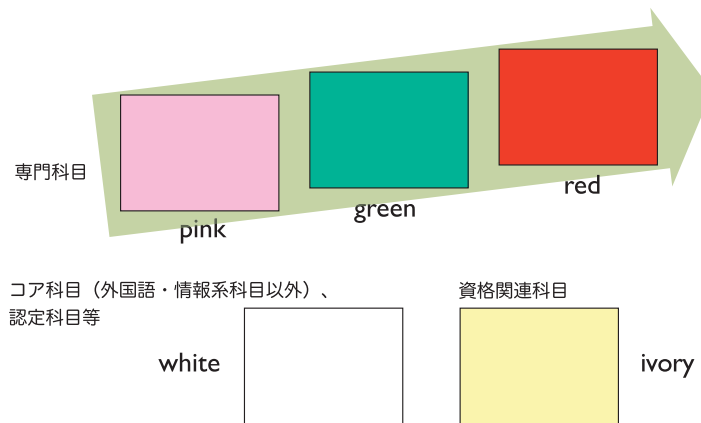
本学では、すべての授業科目について、カリキュラム構成上の位置づけや教育目標に照らした水準をわかりやすくシンプルな色彩別に明示しています。これにより、複数プログラム選択履修における個々の学生の目的に沿った履修計画を立てやすくし、学修支援の基盤のひとつとして機能させています。

●カラーコードの分類方法

授業科目の水準（ベンチマーク）が表すことは、主としてカリキュラム体系における一般的な学修の順序の目安です。多くの場合、それは授業内容の難易水準に沿っています。また、例外はありますが、それは概ね学生が到達すべき学習成果の目標の水準にも沿っています。ベンチマークは、基本的には、3階梯のシンプルな構造になっています。これに3つのカラーコード（ピンク・グリーン・レッド）を適用して識別しています。さらに教職科目等資格関連科目（アイボリー）や既修得単位や単位互換などによる認定科目（ホワイト）など、この分類に馴染まない科目として2分類を加えています。これによって、本学のすべての授業科目を5色のカラーコードに分類しています。

CCBM Color Code Benchmark

Color Code Benchmark system



1 ピンク

カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてはじめに履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準が比較的控えめに設定されている科目。

2 グリーン

カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてカラーコード・ピンクの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準がやや高く設定されている科目。

3 レッド

一般的な学修順序性からみてカラーコード・グリーンの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。または、グリーンの科目での成績について一定のグレードポイントをクリアした場合に履修が認められる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学習成果の目標の水準が高く設定されている科目。

4 アイボリー

教職等資格関連科目。

5 ホワイト

コア科目（外国語・情報系科目以外）、既修得単位や単位互換などによる認定科目。

2 履修登録

(1) 授業科目の履修

① 履修科目の決定

授業時間割を基礎にして、各自の履修する科目を決めます。ほかに学年担当の教員の指導、この冊子の「学部履修規程」「授業科目一覧」「諸資格の取得」、各学部の履修案内、本学Webページ (<http://tw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus>) 内のシラバスを参考にしてください。

② 履修の手続きについて

履修登録は、学内に設置してあるパソコンから、Web上で行います。この手続きをしないと単位を修得することができませんので注意してください。おおまかな日程等は、下記のとおりです。詳細は学生ポータルサイト (<http://tw.ao.ocha.ac.jp>) 又は学生センター教務用掲示板に掲載するので、各自で確認してください。なお、科目によって抽選で履修者を決定することがあり、希望した科目の履修ができない場合もあります。

- ◇第1学期・第2学期・前学期・通年科目 (履修登録) 4月中旬
- ◇第1学期・第2学期・前学期・通年科目 (履修取消し) 前学期中1回
- ◇第3学期・第4学期・後学期科目 (履修登録) 10月上旬
- ◇第3学期・第4学期・後学期・通年科目 (履修取消し) 後学期中1回

履修登録上の注意点

- ・所定の期日以外、履修登録することはできません。
- ・履修未登録者の場合その科目の試験を受けることはできません。
- ・授業に出ていても単位修得を希望しない場合は聴講といいます。履修申請の際に聴講欄にチェックをしてください。

(2) Web履修登録マニュアル

① ログイン画面にアクセス

学内にある共用パソコンで「ID」「パスワード」を入力しログインしてください。次にデスクトップにある「IT Center ポータル」から「Web履修システム」へと進みます。

(共用のPCはラーニング・コモンズやITルーム等にあります。)

アクセスは、共用パソコン以外の学内パソコンからでもできます。この場合、以下のURLを入力してください。「Web履修システム」にアクセスされます。

URL <https://sw.ao.ocha.ac.jp> (学内からのみアクセス可能)

② ログイン

- ・認証画面でお茶大アカウントのID (ユーザー名) とパスワード (学籍番号、パスワード) を入力し、【ログイン】ボタンをクリックします。
(お茶大アカウントは、学生用WebMail (Active! Mail) で使用しているものです。)
- ・ID、パスワードが間違っている場合は、ログイン画面が再表示されます。

■ログイン画面



③ メインメニュー

- ・ログインした学生個人の情報が表示されてます。
- ・各メニューの【Go！】ボタンをクリックすると次画面へ進みます。
- ・お知らせ欄は毎回必ず確認してください。

■メインメニュー画面

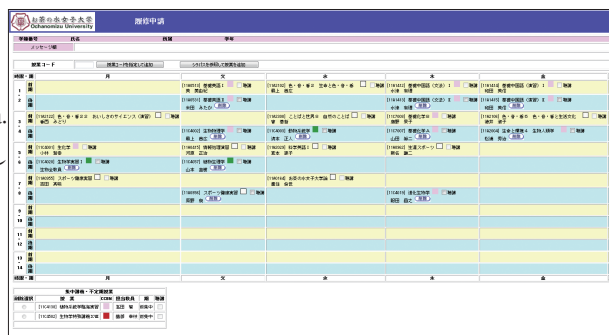


④ 履修申請

- ・履修関連－履修申請をクリックします。

具体的な操作については、シラバス (<http://tw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus/>) に掲載してある履修登録マニュアルを参照してください。

■履修申請画面



⑤ その他

Web履修登録についてのご相談は、総合学修支援センターに問い合わせてください。

(3) 履修の取消し

実際に授業を受けた結果、履修登録時に思い描いていた授業内容と異なったことなどを理由に履修を取消したくなった場合に、履修取消しがおこなえる「履修取消し手続き」制度があります。この手続きは所定の手続き期間内に学生自身が学内オンラインを使いWebでの申請を介して行います。

なお、この期間に「履修取消し」した科目に替わる科目の追加登録をしたり、新たな科目を履修登録したりすることはできません。また、この期間外に履修取消しを行うことはできません。ただし、通年科目を前学期中に取り消した場合、その科目と同曜日同時間に開講される後学期の授業科目を登録することはできます。

(4) 聴講

単位修得を前提とせず、知識の修得を目的として受講を希望する場合は、聴講希望科目の担当教員に伝え、聴講許可を得た上で、聴講登録（Web履修登録）をしてください。この場合、授業には出席できますが、単位認定はされません。

3 授業

(1) 四学期制

お茶の水女子大学は、本学における教育の質をさらに高め、グローバルに活躍できる人材を育成するため、平成26年度から四学期制を導入しました。

① コンセプト

◇学修の質のさらなる向上・学修量の確保

四学期制による約2ヶ月の期間に集中して行う授業は、その記憶が鮮明な状態で次回の授業を受講することができ、学修効果が高まります。また同時に履修する授業科目数が減るため、1科目にかかる授業時間外学修を含めた学習時間が必然的に増え、個々の科目の学修の質向上につながります。

◇学生の主体的な学修活動の促進・本学学生の留学促進

四学期制により5月に第1学期を終えることで、海外の大学のアカデミック・カレンダーとの互換性が高まり、第2学期を使って海外のサマープログラムなどへ参加できます。これによりグローバルな学修機会を得ることができます。また学期単位を短くすることで、1学期まるごとあるいは夏期休業とその前後の学期を組み合わせた期間に、国内外問わず長期インターンシップやボランティア活動などへ参加することも可能になります。

◇国際的交流の促進

海外の大学が夏休みの期間に、海外の大学教員を招聘して多様で刺激に富む授業の開講や、短期外国人留学生を受け入れる可能性も広がるため、国際的な交流の機会が増えます。

② 二学期制と四学期制

二学期制は、1年を前学期と後学期の2学期に分け、それぞれ約4ヶ月を単位として授業が設置されます。四学期制は、これらの学期をさらに2つに分けて、約2ヶ月を単位とした授業が設置されます。

この二学期制と並行して、四学期制が実施されます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
二学期制	前学期					夏期休業	後学期			冬期休業		春期休業
四学期制	第1学期		第2学期				第3学期		第4学期		第4学期	

③ 授業科目と時間割

二学期制と四学期制の授業科目を組み合わせ履修し、卒業までの単位を取得します。

二学期制の主な授業科目は、前学期・後学期にそれぞれ週1回開講される「半期科目」と、前学期・後学期を通して開講される「通年科目」です。

四学期制の主な授業科目は、「2倍型科目」と「分割科目」です。

2倍型科目は、週2回開講し半期科目の半分の期間で2単位を取得します。同じ日に連続して週2回開講される2倍型科目もあります。

分割科目は、連続した第1学期・第2学期又は、第3学期・第4学期に、週1回開講され、基本的に1単位を取得できます。

(1)、(2)など科目名にカッコ付きで表示されているものがこれにあたります。

例) 基礎英語 I (1)

基礎英語 I (2)

1年を通して(1)、(2)、(3)、(4)まである分割科目もあります。

この分割科目は、1単位ごとに独立して履修できる科目と、(1)、(2)の両方を履修しなければ各1単位を取得できない連続性の強い科目があります。

どちらのタイプの科目なのかは、各科目のシラバスで確認できます。

＜基本となる科目の種類＞

- 二学期制 [A] 半期科目—— 前学期、後学期にそれぞれ週1回開講。
 [B] 通年科目—— 前学期、後学期を通して週1回開講。
 四学期制 [C] 2倍型科目—— 第1学期、2学期、3学期、4学期ごとに週2回開講。
 [D] 分割科目—— 第1学期、2学期、3学期、4学期に週1回開講。

- ① (1)又は(2)を独立して履修・単位取得できる科目。
 ② (1)及び(2)を連続して履修しないと単位を取得できない科目。

四学期制時間割のパターン

四学期制の科目…… C 2倍型科目
 D 分割科目

第1学期							第2学期							第3学期							第4学期						
	月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土
1.2限				D(1)			1.2限				D(2)			1.2限							1.2限						
3.4限	C			C			3.4限							3.4限							3.4限						
5.6限							5.6限							5.6限							5.6限						
7.8限					Ca		7.8限							7.8限							7.8限						
9.10限		Da(1)			Ca		9.10限		Da(2)					9.10限		Da(3)					9.10限		Da(4)				
11.12限							11.12限							11.12限							11.12限						

④ 第2学期を利用した海外留学

第2学期を利用して海外のサマープログラムに参加したい場合、連続性の強い分割科目〔上図D(1)〕を第1学期に履修し、第2学期に〔D(2)〕が未修得であっても、翌年次の第2学期に〔D(2)〕を履修することにより分割科目〔D(1)、D(2)〕の各1単位を修得することができます。科目によっては留学先で取得した単位を、第2学期に未履修だった科目として認定可能な場合もあります。

本学は、在学中に交換留学をはじめとした海外留学を積極的に推進しています。交換留学の募集は毎年、第3学期の10月に行われるため、その前の第2学期に海外語学研修や海外サマープログラムに参加し、留学生活の醍醐味を体験してみることをお勧めしています。また交換留学には一定の語学力が求められますので、交換留学に必要な語学力を身につけるためにも、第2学期を効果的に利用するとよいでしょう。

グローバル時代にはグローバルな人材が求められます。グローバルな人材となるためには、海外で学ぶことが最短かつ最善の道です。本学が第2学期を海外留学推進の学期としているのはそのためです。ぜひ、第2学期を有効に活用してください。

(2) 授業と休日

休業日は「学則 第3節 学年、学期及び休業日」の中に定められています。しかし、いろいろな行事や事由のため臨時に授業が休みとなる場合があります（半日、全日等）、春、夏、冬の休業期間の始めや終わりも必ずしも学則どおりにいかない場合もあります。それらはすべて教務チーム（学生センター）を通して掲示又は学生ポータルサイトを使ってお知らせします。

二学期制

学期	期間
前学期	4月1日から9月30日まで
後学期	10月1日から翌年3月31日まで

四学期制

学期	期間
第1学期	4月1日から9月30日までの間で別に定める。
第2学期	
第3学期	10月1日から翌年3月31日までの間で別に定める。
第4学期	

授業時間（月曜日～金曜日）

1・2限	9:00 ～ 10:30
3・4限	10:40 ～ 12:10
5・6限	13:20 ～ 14:50
7・8限	15:00 ～ 16:30
9・10限	16:40 ～ 18:10

(3) 休講

授業担当教員が公務、学会出席、病気等のためやむを得ず休講となる場合は、教員からの連絡により、学生ポータルサイトに掲載されます。学生ポータルサイトはパソコン及び携帯電話で確認できます。なお、学生ポータルサイトへのアクセスには「お茶大アカウント」が必要です。

パソコン用：<http://tw.ao.ocha.ac.jp>

携帯電話用：<http://tw.ao.ocha.ac.jp/k/>

(4) 補講

各学期末に補講期間を設けています。補講の有無については、当該授業で確認してください。また、交通機関のストライキ・台風等による運休に対する措置で休講となった授業の補講については、別途発表します。

(5) 台風等による交通機関の運休及び台風等非常時に対する授業関係措置

休講情報は学生ポータルサイトに逐次掲載します。

① 台風等による交通機関の運休に対する授業休講等の措置について

台風及びストライキ等により次のいずれかの交通機関が運休した場合、以下のとおり授業休講等の措置をします。

- ・JR山手線
- ・東京メトロ丸ノ内線及び有楽町線
- ・東武東上線

授業取扱

運休時間	授業の取扱い
当日午前6時30分までに運転開始	平常どおり
当日始発から午前6時30分まで運休	午前中休講
当日始発から引き続き午前10時まで運休	全日休講

ただし、JR山手線の部分ストライキ（拠点ストライキ）等による運休の場合は平常どおり授業を行います。

② 台風等による気象警報の発表に伴う授業休講等の措置について

台風により、気象庁から東京都に「特別警報」または東京23区西部に「暴風警報」（大雨、洪水、大雪、暴風雪を除く）が発令された場合、授業の取扱いは、次のとおりです。

東京都に「特別警報」または東京23区西部に「暴風警報」（大雨、洪水、大雪、暴風雪を除く）	授業の取扱い
午前6時30分の時点で、警報が発令中の場合	午前中授業休講
午前10時の時点で、警報が発令中の場合	5・6、7・8時限の授業を休講
午後2時の時点で、警報が発令中の場合	9・10時限以降の授業を休講

情報の確認 次頁の方法により、確認してください。

- ・気象庁のホームページ <http://www.jma.go.jp/index.html>
- ・テレビ・ラジオ等のマスメディアによる確認

- ③ その他、気象状況の悪化、不測の事態による休講の取扱いについては、その都度、措置します。
また、休講となった授業の補講については、別途措置します。

(6) 公欠等についての取扱い

学校保健安全法に定める感染症（※１）と診断された場合は、他の学生等に感染させてしまう恐れがあります。その場合は、治癒が確認された後に、医師の診断書を教務チームに提出してください。授業担当教員に、欠席及び評価に対する配慮を依頼する文書を交付します。

また、教育実習・介護等体験、裁判員（※２）に選出された場合の欠席の取扱いは公欠としますので、公欠願を教務チームまで提出してください。

※１ 学校保健安全法の感染症

- 第一種：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ
- 第二種：インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザを除く）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核
- 第三種：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

※２ 裁判員制度による召集の場合

該当する学生は、呼出状を提示（確認後返却）の上、授業を受けられない日時を記入した公欠願の用紙を提出してください。授業担当教員には、教務チームから当該学生について連絡をし、履修上の配慮を依頼します。なお、定期試験期間中の場合は、追試験の対象とします。

(7) 4年次での大学院博士前期課程授業聴講制度

平成19年度より学部4年生で、かつ大学院進学を希望している学生に対して大学院博士前期課程の授業の聴講を認める制度を発足させました。大学院における授業をいち早く体験することによって、大学院についてよりよく知っていただきたいと思います。

① 本制度の対象となる学生の要件

- 学部4年次
 - この制度を実施している博士前期課程のコースを志望する学生*
 - 聴講するにあたって、卒業研究・卒業論文の指導教員の許可を得ること。
- *本制度を実施している専攻、コース及び受講可能授業科目については、別途学生センター棟掲示板等に掲載します。

② 受け入れ形態

授業担当教員は、この制度により受講する学部4年生に対して大学院生と同様に授業・試験等を行い、授業を終了したときは大学院生と同じ基準で成績評価を行います。

③ 本学大学院博士前期課程進学後の単位認定

この制度により科目の成績評価を受けた学部4年生が翌年度に本学大学院博士前期課程に入学した場合は、本人からの申請により、聴講した科目の単位認定を行います。コースごとに認定できる単位数の上限が決まっているので、予め確認してください。

④ 聴講の手続き等

- 申請期間内に教務チーム大学院カウンターに提出してください。
申請期間：前学期開講科目 4月下旬

後学期開講科目 10月上旬

- b) 聴講を許可後、許可書を発行します。
- c) 登録料：3,000円

4

この考え方は、下記の〔1単位の基準〕に基づくもので、このことを理解したうえで、1年間に履修登録する上限のめやすを50単位とし、実り多い履修を心がけてください。なお、この上限設定は、教員免許状等の資格取得のための科目履修には適用されません。

〔1 単位の基準〕

◇講義、演習については、15時間の授業をもって1単位とします。

ただし、個人指導による実技及び教育実習等の授業科目、並びに卒業論文、卒業研究、特別研究又はこれに準ずる授業科目や資格に関する授業科目については、別に定めるところによります。

入学以前に修得した単位（検定等を含む）、在学中に他大学等で修得した単位、転学及び編入学した既修得単位の認定を受けようとする者は、別紙様式Ⅰによる「他大学等において修得した単位等に係る認定願」に成績証明書等を添えて、当該学部長に願い出てください。当該学部長は、教育上有益と認めるときは、当該学科長及び願い出のあった授業科目の関係教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、既修得単位の認定を行います。

なお、単位の認定を行った場合は、認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行うなど履修内容の有益化を図るよう、各学部からの指導をうけてください。

○申請期限——入学以前に修得した単位及び検定等に合格している単位の認定については、入学した年度の第1学期・第2学期・前学期履修登録期間の最終日まで（教務チームに申請の申し出をし、申請手続きの指示を受けること）、それ以外に修得した単位の認定については、その都度受付いたします。

別紙様式2

[illegible]

〔外国語検定による単位の認定〕

『実用英語技能検定』1級又は準1級の合格者、『TOEIC』730点以上のスコアを持つ者、『TOEFL』550(PBT)／213(CBT)／79(iBT)点以上のスコアを持つ者、『中国語検定』4級以上の合格者、『中国語コミュニケーション能力検定』250点以上のスコアを持つ者、『漢語水平考試験』2級以上の合格者、『実用フランス語技能検定試験』4級以上の合格者、『ドイツ語技能検定試験』3級以上の合格者の単位認定は、別紙様式1による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」にそれぞれの基準を満たしていることを証明する書類を添えて、当該学部長に願い出てください。

当該学部長は、関係学科教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、認定を行います。なお、単位の認定を行った場合は認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行うなど履修内容の有益化を図るよう、各学部からの指導を受けてください。

〔認定できる単位数〕

授業科目区分	認定できる単位数
コア科目	※60単位を限度とする。
専門教育・専攻科目	
その他の授業科目	

※本学において修得した単位以外のものについて、上記単位数を上限とします。なお、各外国語検定等による認定単位は以下の表のとおりとします。

認定科目及び単位一覧

授業科目	条 件	認定科目・単位
実用英語技能検定	準1級合格者	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「英語コミュニケーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する8単位を認定する。
	1級合格者	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「英語コミュニケーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する12単位を認定する。
TOEIC	730点以上815点未満	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「英語コミュニケーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する8単位を認定する。
	815点以上	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「英語コミュニケーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する12単位を認定する。
TOEFL	550(PBT)／213(CBT)／79(iBT)点以上 580(PBT)／237(CBT)／92(iBT)点未満	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「英語コミュニケーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する8単位を認定する。
	580(PBT)／237(CBT)／92(iBT)点以上	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「英語コミュニケーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する12単位を認定する。
中国語検定	4級合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語(応用)Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。
中国語コミュニケーション能力検定	250点以上400点未満	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。
	400点以上	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語(応用)Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。
漢語水平考試験	2級合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語(応用)Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。
実用フランス語技能検定試験	4級合格者	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎フランス語(応用)Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」発展フランス語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)「発展フランス語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。

授業科目	条 件	認定科目・単位
ドイツ語 技能検定試験	3級合格者	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。
	2級以上合格者	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。

(3) 海外研修による単位認定

本学が提携した海外の大学での語学研修、ならびに語学教育の内容を含む海外研修を行うことによりコア科目（外国語）の英語の単位として認定します。

①研修の参加資格は以下のとおりです。

- 1) 「基礎英語Ⅰ(1)(2)(・Ⅱ(1)(2))」及び「英語コミュニケーションⅠ(1)(2)(・Ⅱ(1)(2))」をすでに修得済み、または履修中であること。＊
- 2) 『TOEFL』スコア（PBT, ITP）470点以上または『TOEIC』スコア500点以上を取得していることが望ましい（この場合のスコアは、TOEFL・TOEICの正規の公開テスト、本学主催のTOEFL ITPテスト、本学消費生活協同組合主催のCollege TOEICのいずれのスコアでもよい）。
- 3) 事前・事後教育に参加できること。

＊研修参加希望者が募集定員に満たない場合に限り、この条件を満たさない学生の参加を認めます。

②以下の条件を満たし、所定の期間に単位認定の申請を行うと、コア科目（外国語）の英語の単位が認定されます。認定単位数は海外研修の参加回数にかかわらず4単位を上限とします。

認定可能な科目と単位数は研修ごとに異なるため、詳細は研修説明会にて発表します。

- 1) 本学で行う事前・事後教育に参加すること
- 2) 海外研修の全期間にわたって研修に参加すること
- 3) 研修を受けた大学により研修の修了が認められること
- 4) 本学で課した課題を研修後に提出すること

③研修希望の提出等に関する手続きについては、学生センターの掲示をよく見て、指定された期間内に申し込んでください。参加希望者が募集定員を上回った場合は選考を行います。

(4) 学部学生交流協定に基づく単位互換制度

本学では東京工業大学、東京芸術大学、東京外国語大学、共立女子大学（生活科学部のみ）、東京海洋大学（理学部のみ）、一橋大学との単位互換制度を実施しています。ついては、当該大学の授業科目の履修（特別聴講学生）を希望する学生は、申込関係の資料を教務チームで受け取り、所定の期日までに手続きをしてください。

学部学生交流協定校一覧

協定先	受入・派遣学生の条件				履修可能学部
	対象学年	文教育学部	理学部	生活科学部	
東京工業大学	—	○	○	○	理学部／工学部／生命理工学部
東京芸術大学	—	○	○	○	音楽学部
共立女子大学	—	×	×	○	家政学部
東京外国語大学	2年生以上	○	○	○	外国語学部／言語文化学部／国際社会学部
東京海洋大学	—	×	○	×	海洋科学部
一橋大学	2年生以上	○	○	○	商学部／経済学部／法学部／社会学部

派遣学生申請書

派遣学生申請書

平成 年 月 日

文 教 育 学 部 長
理 学 部 長 殿
生 活 科 学 部 長

所 属 学部 学科 コース・講座

氏 名 _____

学籍番号 _____

連 絡 先 _____

私は、平成 年度に 大学 学部において下記科目を履修したいので、派遣学生として許可願います。

記

科 目 番 号			
科 目 名			
教 員 名			
単 位 数			
学 期			
曜 日			
時 限			
※選択科目として認定を希望する場合は、本学の読み替え科目名			

●読み替え科目については、学科の承認を得ること。

上記科目を履修することを承認します。

学科長 _____

氏 名 _____ 印

5 学習成果

(1) お茶の水女子大学アカデミック・エシックス

詳しくは、http://www.ocha.ac.jp/research/ethics_indicator/index.htmlを参照。

「学ぶ意欲のある全ての女性の真摯な夢の実現の場として存在する」

お茶の水女子大学は139年の歴史を通して、女性が高等教育を受けることのできる唯一の場として、先駆的な女性が多く学び、それぞれに社会をリードしてきました。その精神を今日も受け継ぎつつ、真摯に学ぶ女性を育成し、教育と研究の成果を社会に還元することによって、日本のみならず国際的に社会をリードし未来を創造しうる女性のためのより高度な教育研究機関となることを志向しています。

学びにおいて、自らの問題関心・研究テーマを、自らの努力によって怠りなく「磨き続ける」ことが求められます。本学では、高度な専門教育と並んでリベラル・アーツ教育を重視しており、学びの中で問題関心を広げ、専門を深め、固有のテーマを発見していくことが求められます。本学で学ぶ学生が、自らの関心において、また自らの責任において、学びを実現することを目標としています。

学びには、責任が伴います。著作権・プライバシーなど、研究活動によって他人の権利を侵害するようなことはあってはなりません。

上記の精神は、皆さんが日々の学習成果を表す場（試験やレポート等）においてもぜひ反映させていただくことを望みます。学問に対して真摯な態度で臨むことは、高等教育を受ける者として何よりも基本的なことです。

大学は、文化を創造し、自然の原理を探究する場です。自らの研究に責任を持ち、お茶大生として先人の業績に敬意を払い、自らの知と新しい文化を創造することを意識してください。

(2) 試験

各学期の終りに一定の期末試験が設けられています。各科目とも開講学期の終了時に試験を行うのが原則です。(1)(2)が付く科目のうち連続して履修を行う科目は、(1)終了時の試験を省く場合もあります。

これらの試験は、その期間内の平常の時間割で行われるのが通例です。学生は、事前に教員と必ず打合わせ、筆記試験・レポートの別、その日時・場所について承知しておかねばなりません。

なお、試験の際には学生証の提示を求める場合があります。また、遅刻した場合の入室制限及び退室を認める時間を設けることがあります。

不正行為

カンニング等の不正行為は学生にとってあるまじき行為であり、本学では以下のように処します。

I 試験において不正行為を行った者については、教育機構長は、別に定める手続きにより、次の措置を行います。

(1) 当該学期履修科目の全ての受験科目を無効とする。

(2) 学内に当該措置（措置事例）について告示する。

II 前項の不正行為については、同項に規定する措置のほか、学則第66条に規定する懲戒の対象とします。

追試験

病気その他、止むを得ない理由により、期末試験を受けられなかった学生については、担当教員が特に必要があると認めた場合に限り追試験を行うことがあります。

追試験を希望する者は当該期末試験終了後1週間以内に教務チームに「追試験願」及び「欠席理由を証明する書類」を提出しなければなりません。「追試験願」は教務チームで配付します。

ただし、卒業予定者は前記に関わらず、直ちに申し出ることとします。

(3) レポート、論文提出

成績評価は筆記試験のほかに、レポートや論文提出によって行われる場合もあります。レポート・論文作成においても、以下のような不正行為を絶対に行ってはけません。

本学では学則第66条に規定する懲戒の対象となります。

<レポート、論文における不正行為の例>

- ・文献や著書、論文、資料、インターネット上の文章、図表、写真や絵などを、引用先を明記しないまま、自分のオリジナルであるかのように用いること。
- ・先輩や友人、知人などが作成した文章、図表、写真や絵などを、自分が作成したものとして用いること（レポートの使い回し）。

自分のレポート・論文上で他人のアイデアを盗用することは、筆記試験におけるカンニングと同様の不正行為です。評価する側から見れば、コピー＆ペーストによって作成されたレポートや論文かどうかは明らかにわかります。

以下のルールを守ってレポートや論文を作成してください。

<レポート、論文作文のルール>

- ・文献や著書、論文、資料、インターネット上から引用した場合は、引用部分を「」などで明示し、どこからどの部分を引用したのか明記すること。
- ・自分のレポートや論文で述べる見解や発想が、何らかの文献や著書、論文、資料、インターネットに負っている場合は、それがどこであるかを明らかにすること。

※詳細は各授業担当の教員に確認してください。また、図書館にレポートや論文の執筆の方法について書かれた参考書のコーナーがありますから、参考にしてください。

(4) 成績評価

① 成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して、100点満点、60点以上を合格とする素点による評価またはレターグレード（S、A、B、C、D（不合格））による評定で評価されます。成績通知票・成績証明書には合格科目それぞれについて以下のとおり記載されます。

レターグレードと評点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

- S（90点以上）： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
- A（90点未満～80点以上）： 基本的な目標を十分に達成している。
- B（80点未満～70点以上）： 基本的な目標を達成している。
- C（70点未満～60点以上）： 基本的な目標を最低限度達成している。
- D（60点未満不合格）： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価は上記の評価基準のほか、S評価を評価対象者の15%以内（履修者数が10人未満の場合は2名以下）に留めることを目安にした評価基準を設けて評定されます。履修放棄によって評定できない場合はD（不合格）となります。授業科目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により評点が定まります。

$$S = 95, A = 85, B = 75, C = 65, D（不合格） = 55$$

② GPA制度

本学は学生の視点に立った教育改革を推進するため、米国やアジア諸国で行われているGPA（Grade Point Average）制度を導入しました。この制度は、各学生の授業科目ごとの成績評価を一定の方法でグレードポイント（GP）に置き換え、そのGPに該当の科目の単位数を乗じて、それを履修数分合算し、その値を登録科目総単位数で割って算出するものです。

GPA制度は単位数という学習の「量」だけでなく、成績評価に基づく「質」について保証するものです。GPAによ

り、学期（セメスター）毎の学習の成果がより明確となり、学生の学習意欲の向上や履修登録の自己規制、さらに各自の努力目標が具体的になることなどをねらいとしています。ここでは、学生にとって、大切と考える目的や効果を3つあげます。

1) 学ぶ意欲がいっそうに増す

個々の科目における学習改善努力が成績に反映しやすくなります。これまでは成績評価が5段階のみであらわれ、粗かったため、多少の努力のほどは成績評価値になかなか反映されませんでした。

GPAでは科目の試験やレポートの素点評価がリアルに成績に反映するので、学習努力の違いが成績差異としてはっきりみえやすくなります。したがって、自分自身の成績改善に向けての動機が高まり、授業への積極的な参加意欲が増すことになるでしょう。

また、単に単位の修得だけでなく、よりよい成績をとることの意味が実感できるようになります。

2) 不合格を避け、しっかり履修

GPAの算定ではある科目が不合格になると、そのGPは0で、しかもGPA算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格をとると最終的なGPAの値に大きなダメージを負います。

これまでのように不合格科目は成績証明書に記載されず、必修科目でない限り何の損失も被らないというようなことはなくなります。ただし、一度不合格になった科目でも再履修してあらためて合格の成績をとれば、その新たな成績が書き加えられてあらためてGPA算定がなされます。

ともあれGPA制度のもとでは、履修した科目は不合格にならないように気をつけることが大事になります。そのためには、科目履修の際に必要な以上に多くの科目を履修してあとで負担にならないよう十分留意し、計画的な履修をすることが大切になります。

3) 自分の成績の位置づけがわかるとともに各種選考基準の透明性が増す

学期ごとに学科目のGPやGPA値を確認しながら、学内での自分の成績の相対的な位置づけを確認していくことができます。さらに、今後、奨学金の貸与基準、特定の科目の履修基準、種々の学内選考の際の基準指標などにGPA値が使われるようになりますので、目指すべき成績について具体的な目標を設定しやすくなります。

また、就職や留学、進学など対外的な場面で、この値が求められても対応できることになります。

③ GPAの算定方法

GPAは、授業科目ごとの成績評価（100点満点の素点評価SS）をつぎに示した1）の算定方法でGPに置き換え、つぎに2）の算定方法で、そのGPに該当の科目の単位数を乗じて、それを履修科目数分合算し、その値を履修総単位数で除することにより求めます。

$$1) \text{GP} = (\text{SS} - 55) / 10 \quad \text{ただし、GP} < 0.5 \text{はGP} = 0.0 \text{とする。}$$

SSは100点満点の素点評価

$$2) \text{GPA} = (\text{履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修総単位数}$$

・履修総単位数には不合格となった科目（GP = 0）の単位数も含まれる。

④ 2つのGPA指標（f-general GPAとf-strict GPA）の併用

本学ではGPAの機能特性を十全に発揮させ、かつ国内外の大学との通用性を確保するため、f-strict GPAとf-general GPA（fはfunctionalの略）、2つの指標を併用します。

f-strict GPAは現在、多くの大学で採用されているGPAと実用上、十分な互換性をもっていることが検証済みです。しかし、成績のトップゾーンにかぎってはとくに米国と我が国の多くの大学においてGP（A）の最高点を4.0、合格域の最低点を1.0にしているのに対して、f-strict GP（A）では最高点が4.5、最低点が0.5になります。そこで他機関との通用性を優先して、本学では対外的に用いるGPAとしてf-strict GPが点4.0以上の値（100点満点換算で95点以上）を一律4.0、1.0以下、0.5以上の値を一律1.0にしたf-general GPも用います。

一方、学内でGPAを種々の用途に使う場合には（成績の全範囲について原成績を忠実に反映する）f-strict GP（A）を用います。

<事例>

functional GPA算定の例示

○5科目17単位分の場合のG Pとそのアベレージがどのように求められるか

科目名	単位数	成績評点	L G	f-strict GP	f-strict GP×単位数	f-general GP	f-general GP×単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.00
地学演習	4	50	D	0.00	0.00	0.00	0.00
地学実験	1	66	C	1.10	1.10	1.10	1.10
卒業研究	8	70	B	1.50	12.00	1.50	12.00
計	17				27.50		26.90

5と7カラム目のG Pは次式で求めます。成績評点は100点満点ですが、科目によっては小数点以下の値をもった評価もありえます。

$$GP = (\text{成績評点} - 55) / 10 \quad (\text{ただし、} GP < 0.5 \text{ は } GP = 0.0 \text{ とする})$$

最後に、 $GP = \Sigma (GP \times \text{当該科目の単位数}) / \text{履修総単位数}$ ですので、上例では、

$$\text{f-strict GPA} = 27.50 / 17 = 1.617$$

$$\text{f-general GPA} = 26.90 / 17 = 1.582 \quad \text{となります。}$$

★留意点

- ・上例の値は段階評価でいえば、良のゾーンの下限近くに相当します。ですから、上例は全体としてあまりよくない成績の事例です。
- ・上例では地学演習（通年4単位）で不合格をとっているため、GPが0となり、しかも単位数が相対的に大きかった科目であるため、GPAが大きく損失しています。仮に、この科目で80点をとってれば、f-strict GPAは2.205でした。
- ・ちなみに、よく学ばれて各科目で比較的良好な成績をとった好ましい例もシミュレーションしておきましょう。

科目名	単位数	成績評点	L G	f-strict GP	f-strict GP×単位数	f-general GP	f-general GP×単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.30
地学演習	4	80	A	2.50	10.00	2.50	10.00
地学実験	1	90	S	3.50	3.50	3.50	3.50
卒業研究	8	85	A	3.00	24.00	3.00	24.00
計	17				51.90		51.60

$$\text{f-strict GPA} = 51.90 / 17 = 3.052$$

$$\text{f-general GPA} = 51.60 / 17 = 3.035$$

米国の損保会社にはGPAが3.0以上の成績をもつ学生の自動車保険料を25%割引にするなどの特典を設定しているところがあります。この値がもつ社会的通用性の一面をあらわしています。

⑤ GPA算定の対象科目

他大学などでの履修（留学を含む）や本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目や「合否・不合格」による評定で成績がでる科目を除く総ての科目が対象になります。

⑥ GPAの算定期日

GPAの算定は、GPA算定基準日までに確定した成績に基づいて行います。算定基準日は原則、前期は9月15日、後期は3月20日です。前期に算定される科目は、当該年度の前学期、第1学期、第2学期で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。後期に算定される科目は、当該年度の後学期、第3学期、第4学期、通年で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。

⑦ 成績通知票・成績証明書への記載

成績通知票や成績証明書にはその趣旨説明とともにf-strict G P (A)、f-general G P (A) 両指標を併記します。また、G P A 算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績とG P A 間の整合性を明白にします。

(1)学修支援情報システム alaginについて

alagin (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) は、各自が履修している時間割や前学期までの成績、履修登録単位数、修得単位数の推移を学内情報ネットワークを介して、いつでも確認できる学修支援情報システムです。

ここではalaginが提供している情報や効能を簡単に紹介します。

① alaginへのアクセス方法

alaginへのアクセスは、本学のウェブサイトの複数の箇所（例：大学トップページの「在学生の方」のリンク先、教育開発センターのトップページなど）に「alagin」へのリンクがあります。そこをクリックすれば図に示したalaginへの入口が表示され、「履修している時間割を見る」と「学修状況をチェックする」のボタンが表示されます。時間割はスマートフォンを含む任意の端末から、一般的なインターネットブラウザを用いてどこからでもアクセスできます。学修状況は扱っている情報の性質上、現時点では学内のLAN、すなわち図書館等に設置されている学内LAN端末や無線LAN、ochaを介してのみアクセスできます。後者を使えばキャンパス内では、自分の端末でもアクセス可能です。

alagin 初期画面へのアクセスは通常、本ホームページのトップページにあるリンクボタンからおこないますが、上記の「alagin 初期画面」リンクからでも、左の写真をクリックすることでも入れます。時間割、学修状況のいずれもクリックすると統合認証画面が表示されますので、自分の学生IDとパスワードを入力すれば、以下の情報画面にログインできます。

画面上には個人名や学籍番号は表示されませんが、閲覧した後は必ず開いたページを閉じてください。とくに学内の共用端末で閲覧した後、別のウェブサイトに移動してそのまま放置すると閲覧した学修状況のデータがページに残ったままになるからです。

② 履修している時間割

自分が今学期に履修登録している時間割が、実際の履修登録データをもとに生成されています。もし、履修登録したはずの授業科目が表示しなかったり、履修申請していない科目が表示されている場合は、教務チームの窓口で登録状況の確認をしてください。その他の疑問など、alaginに関する問い合わせは、crdehd@cc.ocha.ac.jpで受けつけています。

また、授業時間外の学習に24時間学外からでも利用可能な授業・学習支援システムのmoodleやploneを用いている授業については、alaginの時間割にそのマークが付記され、そこから直接moodleやploneに入ることができます。

時間割には、簡単なメモを貼り付けておくこともできます。レポートの提出期日や課題内容などの一時的な備忘録として利用してください。ただし、これは簡易的なものなので一度書いたものを修正することはできず、個々のメモを削除して新たに書き直す必要があり、削除した内容は保存されません。また、サーバー情報の更新に伴って予告なく書いた内容が消えてしまう可能性もあるため、あくまで臨時的なメモ書きとしての利用に留めてください。



③ 学修単位数の状況

入学以降、現在までの学期ごとの学修単位数の推移を確認できます。この単位数グラフは履修登録をした単位数、修得した単位数、GPA（Grade Point Average、当履修ガイドのP.44を参照）に算入された単位数（例えば、編入などにより認定された既修得単位数はGPAに算入されません）、卒業要件を充たしている修得単位数のそれぞれについて表示されます。

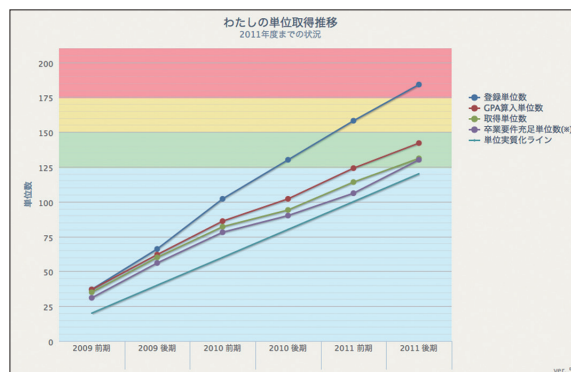
単位数については大学設置基準（法定）で学期ないし年間に履修可能な単位数に上限を設けるなどの措置をして、卒業に必要な単位数を大幅に超えた履修をしないよう留意することが求められています。これは履修した授業科目に標準的に必要とされる学修時間（授業時間+授業外学習時間（講義・演習の場合、一般に授業時間の2倍））を確保し、学び修めることを確実にするための要求です（これを受けて他大学では年間50単位、学期あたり21とか23単位といった履修制限を設定しています〔キャップ制〕）。これは単位制度の実質化と呼ばれており、現在の日本の大学制度の典型的な課題になっています。

この対応として本学では制度により履修制限をする方策をとらず、各自で単位制度の実質化が意図していること、GPAの特性（必要以上に履修をするとその分、無理な学修負荷が生じて成果を損なう危険率が増す）を理解してもらうことを、このalaginを通じて単位修得状況をチェックすることにより、主体的に単位制度を実質化してもらう策を講じています。

このグラフには、単位制度が妥当に機能し実質化していると判断される基準線（ドットのない青い直線）が示されています。このラインは卒業要件単位を4年間で充たしていくと想定したときに、そのおよそ3割増しで履修していくケースを示しています。したがって、このラインを目安に、これを大きく超えて履修し（青色のグラフ）単位を修得（緑色グラフ）していくような学修の仕方は「履修しすぎによって個々の授業への学習時間が確保できず全体の学修成果の実効性やクオリティが低下している」ことを示すものと解されます。即ち学修しても昨今の大学制度下では努力の成果であるとは認められず、反対に否定的に評価されてしまうのです。要は卒業要件を充たす範囲で十分な授業時間外学習の時間を確保した状態で、質の高い学修をしてもらうことが望ましいのです。

現実的には1、2年次に、この基準線を上回る履修と単位修得がなされることでしょう。しかし、最終的にはこのラインに近づいていくよう調整的に履修計画を立ててください。

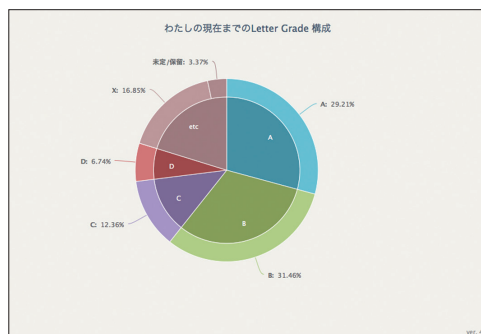
グラフの背景の色分けの意味については、教育開発センターのウェブサイトにあるalaginの説明をご覧ください。



④ レターグレード評価の構成

現在までに単位修得している授業科目の成績について、そのレターグレードの構成割合を円グラフで確認できます。

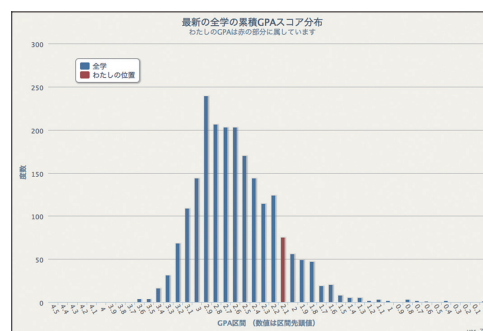
本学のレターグレードは標準的にはS、A、B、C、Dの5段階でDは不合格です。ほかの指標として編入学などに伴う既修得単位などの認定単位としてCR、また評価未定や保留があります。平成22年度以前入学生には履修放棄などによる評価不能としてXという指標があります。平成23年度以降入学生の場合、履修取消手続きをせずに履修放棄した場合は不合格になりますのでこの指標はありません。このグラフでは上記5段階評価以外の指標はetcとして一括して示しています。



⑤ GPAの学内での位置づけ

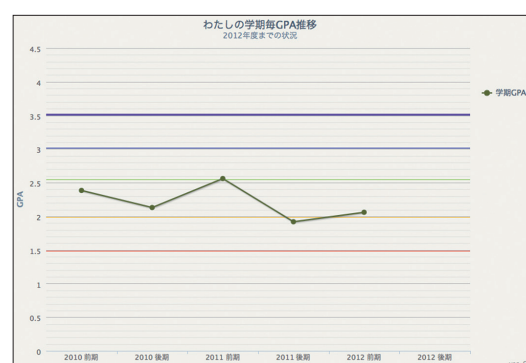
GPAを用いた学修成果状況を、以降の3観点で確認できます。用いているGPA指標はstrict GPA（当履修ガイドのGPA制度（P.44）を参照してください）です。

入学来、前学期までの自分の累積GPAの値を、学士課程全学生の累積GPAの度数分布のなかで捉えることができます。自分の総合的な学修成果の位置づけ（赤のグラフの部分）を全学のなかで知ることができます。度数分布は横軸に示した数値を先頭にして次の数値に至る手前までの区間です。即ち左端の区間はGPA4.5以下～4.4を含まないそれ以上までの値の区間をあらわし、縦軸は各区間の度数（人数）を表しています。グラフの左下のボタンをクリックすることにより、同様の度数分布と自分の位置づけを所属学部、または所属学年において捉えることができます。



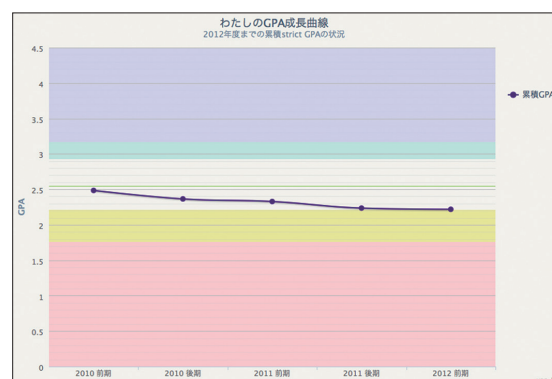
⑥ 学期ごとのGPA推移

学期ごとの自分のGPAの推移を確認できます。グラフ背景は5色のラインが引かれています。上から順にGPA3.5のライン（紫）。これを超えると、かなり優等な学修成果を達成した学期だったといえます。次にGPA3.0のライン（青）、これを超えると、優等な学修成果を修めた学期だったと評価できます。緑のラインは全学平均GPAをあらわしています。黄色のラインはGPA2.0をあらわしますが、これを下回ると学修成果が不十分な学期だったといわざるをえません。大学によっては、これ以上のGPAを獲得することを卒業要件にしています。GPA1.5を表す赤色のラインを下回ると、学修成果にあきらかな問題があったといえます。学修について担当教員や総合学修支援センター、教務窓口、あるいは学生相談室などに相談し根本的な対策を図ることをお勧めします。



⑦ 学修成長曲線

これは各学期ごとにstrict GPAを入学以来の累積で示し、その推移を曲線で表現したグラフです。学期ごとのGPAに比較すると入学来の加算で示されるため変動が緩やかになります。その分、学期間のパフォーマンスのばらつきが相殺されて修学期間を通じた学修プロセスの成果状況を反映したグラフになります。そのため点間をあえて曲線で補完して表現しています。ですから、この曲線では変化の量（大きさ）よりも質について注視する必要があります。当然、全体にマイナス成長やマイナス気味になっている場合は努力要請を表しており、学修計画に何らかの対策を施す必要があることを示しています。



グラフ背景の色分けの意味については教育開発センターのウェブサイトにあるalaginの説明をご覧ください。

なお、alaginは現在も開発を進めており、皆さんの修学期間中に、さらに新たな情報の表示や機能の拡張、改善が施されていく予定です。それに伴ってここに記した操作方法や内容が変更される場合もありますが、常にalaginに接していれば、それらの変化には十分に対応できることでしょう。

※ alaginに関する問い合わせは、crde-hd@cc.ocha.ac.jpで受け付けています。

学籍とは、本学の学生としての身分を有していることをいいます。学籍は入学によって発生し、卒業、退学、除籍によって失われます。在学とは、学生が本学の学籍を有し、現に学修している状態をいいます。在学期間とは、その学修している期間をいいます。修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な最小の在学期間をいい、在学年限とは、本学に在学できる最長の在学期間をいいます。なお、休学期間は在学期間には含めません。

(1) 修業年限

修業年限は4年です。修業年限の2倍を超えて在学することはできません。ただし、編入学、転学部・転学科等による学生は、修業すべき年数の2倍を超えて在学することはできません。また、入学前に、本学の科目等履修生として一定の単位を修得した者が入学する場合、規定により認められた単位の全部、又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、規定する修業年限について当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができます。

(2) 休学

病気その他の事由により修学することができないときは、事由を添えて学長に願い出てその許可を得る必要があります。なお、休学の期間はその学年末までとし、特別の事情があるときは、引き続き休学を願い出ることができます。

■留意事項

- ・休学期間は、通算して定められた修業年限の年数を超えることができません。
- ・休学期間は、在学期間には算入しません。
- ・休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。
- ・休学期間中は、授業料は発生しません。
- ・休学期間満了後、「復学」「退学」「休学の延長」等の申し出がない場合は授業料の納入が必要となります。

(3) 復学

休学の理由が解消して復学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

(4) 退学

退学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

(5) 除籍

次の各号のいずれかに該当する者は、当該学部教授会の議を経て、学長が除籍します。

- ・授業料を2期連続して滞納し、督促してもなお当該2期分を納付しない者【P.252参照】
- ・本学則に定める第14条第2項に定める在学年限を超えた者
- ・本学則に定める第14条第3項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- ・長期間にわたり行方不明の者
- ・入学料の免除を申請した者で、免除を許可されなかった場合又は半額免除を許可された場合であって、納付すべき入学料の全額又は半額を所定の期日までに納付しない者

(6) 転学

本学から他の大学に転学しようとする者は、学長の承認を得なければなりません。

(7) 留学

本学には大学間交流協定校に留学する「交換留学派遣制度」があります。

交換留学生として派遣されるためには、学内の選考を経て協定校の承諾を得る必要があります。
留学期間は修業年限に含まれ、修得した単位は一定の条件により認定を受けることができます。

大学間交流協定校一覧（学生派遣可能な協定校のみ）

（2014年2月現在）

協 定 校	国 名	締結年月日
アジア（23校）		
韓国芸術総合学校舞踊院	大韓民国	2011. 01. 17
慶北大学校	大韓民国	2011. 06. 22
啓明大学校	大韓民国	2013. 07. 09
淑明女子大学校	大韓民国	2000. 02. 14
同徳女子大学校	大韓民国	2005. 03. 30
釜山大学校	大韓民国	2012. 03. 21
梨花女子大学校	大韓民国	2000. 02. 28
アジア工科大学院大学	タイ	2004. 12. 29
タマサート大学	タイ	2007. 06. 13
チェンマイ大学	タイ	2010. 05. 27
プリンス・オブ・ソンクラーク大学	タイ	2009. 08. 14
開南大学	台湾	2012. 05. 25
国立政治大学	台湾	2001. 07. 25
国立台北芸術大学	台湾	2002. 01. 29
国立台湾大学	台湾	1999. 12. 17
大連外国語大学	中国	2006. 10. 02
北京外国語大学	中国	2005. 10. 17
北京大学歴史学系	中国	2002. 01. 26
復旦大学歴史学系	中国	2010. 10. 12
国立ハノイ教育大学	ベトナム	2008. 03. 03
ハノイ大学	ベトナム	2013. 02. 18
ベトナム科学技術アカデミー・ゲノム機関	ベトナム	2013. 10. 15
インドネシア芸術大学デンパサール校	インドネシア	2014. 01. 10
中東（1校）		
アンカラ大学	トルコ	2007. 08. 08
アフリカ（2校）		
カイロ大学	エジプト	2007. 03. 15
マンソウラ大学	エジプト	2003. 03. 30
北米（5校）		
ヴァッサー大学	アメリカ	2006. 06. 01
カリフォルニア大学サンディエゴ校	アメリカ	2014. 01. 02

協 定 校	国 名	締結年月日
カリフォルニア大学デービス校	アメリカ	2010. 09. 30
パーデュー大学	アメリカ	2004. 01. 26
南オレゴン大学	アメリカ	2012. 10. 22
オセアニア（3校）		
ニューサウスウェルズ大学	オーストラリア	2011. 09. 30
モナシュ大学	オーストラリア	1994. 12. 14
オタゴ大学	ニュージーランド	2003. 12. 19
ヨーロッパ（24校）		
オックスフォード大学クイーンズコレッジ	イギリス	1994. 01. 18
マンチェスター大学	イギリス	2009. 09. 15
ハル大学	イギリス	2013. 10. 02
ロンドン大学キングスコレッジ	イギリス	2013. 12. 02
ロンドン大学 東洋・アフリカ研究学院	イギリス	1999. 08. 05
国立ナポリ大学オリエンターレ	イタリア	2011. 01. 11
コッレージョ・ヌオーヴォ	イタリア	2013. 03. 25
‘サピエンツァ’ ローマ大学	イタリア	2012. 07. 12
ウィーン工科大学	オーストリア	2002. 12. 05
リンショープ大学	スウェーデン	2012. 01. 12
スロバキア工科大学	スロバキア	2003. 03. 04
カレル大学	チェコ	2004. 09. 07
ケルン大学	ドイツ	2010. 03. 18
バーギシェ・ブッパタル大学	ドイツ	2002. 02. 24
ブレーメン応用科学大学	ドイツ	2011. 01. 21
セントリア先端科学大学	フィンランド	2009. 12. 01
タンペレ大学	フィンランド	2003. 02. 13
ストラスブール大学	フランス	2002. 07. 05
パリ・ディドロ（パリ第7）大学	フランス	2008. 02. 01
ブレーズ・バスカル（クレルモン第2）大学	フランス	2009. 08. 28
ボルドー第一大学	フランス	2011. 03. 01
ワルシャワ大学	ポーランド	2010. 02. 10
ブカレスト大学	ルーマニア	2009. 08. 03
トムスク国立教育大学	ロシア	2002. 07. 03

※協定大学（59校）の内、学生を派遣できる協定校（58校）のみ掲載しています。

※協定校は随時更新されますので、最新情報は以下の大学HPにてご確認ください。

<http://www.ocha.ac.jp/intl/studyab/link/>

（8）転学部及び転学科

学部内の他学科等または他学部への転入（以下「転学部・転学科」という）を考えている学生は、まずは学年担当の教員等に相談してください。所属の学科や転入希望先の学年担当教員、学科長等が相談に応じます（これらの教員の連絡場所や連絡方法が分からないときは、教務チームにお問い合わせください）。

転学部・転学科の手続きなどの取扱は、次のとおりです。教務チームが窓口になっています。できるだけ早い時期に願い出てください。

- ①転学部・転学科を申し出ることのできる学生は、転学部・転学科の時期において在学1か年以上となる見込みのものとします。

転学部・転学科の期日は、4月1日とします。

- ②「転学部・転学科願」は所定の様式により、教務チーム（学生センター棟1F）に前年度12月28日までに提出すること。
 転学部・転学科受験許可は、受入れ学科等の了承を得た上、1月の所属学部教授会の議を経るものとします。
 この受験許可にあたっては、受入れ学科等の収容人員などの事情が考慮されます。
- ③受験許可の場合の試験期間は、1月下旬より2月上旬までの間に行ってください。
- ④転学部・転学科の可否の判定は、次の各号を総合判定し、受入学部教授会の議を経て決定します。
- ・入学者選抜試験の成績
 - ・在学中の成績
 - ・転学部・転学科試験成績
 - ・面接
- ⑤転学部・転学科の可否は、本人に通知します。
- ⑥転学部・転学科が認められた者の在学期間は、受入学部教授会の議を経て決定します。

転学部・転学科願				
平成 年 月 日				
お茶の水女子大学長 殿	学 科 長		学 年 担 当	
学部 学科 平成 年度生 氏 名 Ⓔ (〒) 連絡先 (TEL ())				
下記理由により 学部 学科 へ 転学部・学科したいので許可くださるようお願いします。				
理 由				
学 部 長 教 務 チ ー ム				

(9) 学費

- ①授業料は、毎年下記の期限までに、年額（535,800円、平成26年4月1日現在による）の2分の1ずつを2期に分けて納めてください。なお、銀行振り込みの場合、一括で納めていただいても構いません。納入方法は、口座振替の場合は、各自の登録口座へ、銀行振り込みの場合は、本学指定口座へ、以下の期限までに銀行へ振り込んでください。

前期分	口座振替 5月27日
	銀行振込 5月中
後期分	口座振替 11月27日
	銀行振込 11月中

上記期間内に納入されない場合は、除籍の対象となる場合がありますので、注意してください。

なお、口座振替日は変更する場合がありますので、大学ホームページをご覧ください。

- ②経済的事由により、納付が困難であり、かつ学業が優秀と認められる者又はその他やむを得ない事情があると認められる者で、当該学部を経て学長に願いが出たときは、授業料の全部又は一部を免除、又は授業料の徴収を猶予することがあります。詳しくは学生・キャリア支援チームにお問い合わせください。

8 学生サポート

(1) 本学ホームページの紹介 <http://www.ocha.ac.jp>

大学で行われている研究やシンポジウムなどの告知が数多く発信されています。履修に関することや授業のシラバス、行事予定なども確認することができます。

また、奨学金や授業料免除、学生寮のことなど最新情報が掲載されていますので、積極的に活用してください。

大学ホームページで確認できる一覧

学 生 生 活 関 係	○奨学金 ○授業料免除 ○授業料 ○学生寮（国際学生宿舎、小石川寮、お茶大 SCC） ○課外活動（届出、貸出物品一覧など） ○学園祭 ○学生相談室 ○就職 ○ピアサポートプログラム ○拾得物・遺失物
履 修 関 係	○休学・復学・退学の手続き ○シラバス ○教務年間日程 ○教員免許など各種資格取得 ○学部・院 教育研究者情報 ○各学部・大学院紹介 ○科目等履修生、研究生、聴講生の募集 ○証明書発行の手続き
そ の 他	○本学の歩み ○同窓会・後援会・生活協同組合 ○国際交流（留学） ○イベント情報 ○公開講座 ○セミナー案内 ○大学刊行物 ○図書館、情報基盤センターなど各種センター利用案内

(2) 学生ポータルサイトの紹介

大学ホームページ以外にも、学内はもちろん学外からでも授業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設しています。なお、学生ポータルサイトへのアクセスには「お茶大アカウント」が必要です。

パソコン用 <http://tw.ao.ocha.ac.jp>

携帯電話用 <http://tw.ao.ocha.ac.jp/k/>

(3) 教務関係事務の相談

履修上の各種の疑問は、学年担当教員や教務チーム（学生センター棟1F）に問合わせてください。事務担当窓口で解決できないときは、委員会や教授会等に諮りますから、教務チームに相談してください。

(4) 総合学修支援センター

「複数プログラム履修」に関する履修相談、GPA制度、カラーコードベンチマークに関する相談等、その他、総合的な学修相談、学修の支援を行います。

(5) グローバル教育センター

外国人留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対し、修学及び生活に必要な教育・指導助言を行うとともに、地域と連携した留学生のための支援事業を実施します。

(6) 外国語教育センター

コア外国語教育の履修指導、本学企画の海外語学研修（単位認定される）への協力（研修先の選定など）、ランゲージ・スタディ・コモンズ（共通講義棟3号館101～103室）での外国語の自習指導などを行います。また、言語文化学科英語圏言語文化コースと協力して国内語学キャンプ（イングリッシュ・キャンプ）を企画・実施します。

(7) 諸証明書の発行

学生が卒業見込証明書、成績証明書を希望するときは、学生センター棟2Fに設置されている自動発行機で受けとることができます。そのほかの証明書や卒業後に卒業証明書等を希望するときは、教務チーム（学生センター棟1F）備付けの「証明書交付願」に記入しなければなりません。

(8) 掲示の場所

事務から学生に連絡する事項は、学生ポータルサイト及び掲示板に掲示します。又、学部に関することは、各学部の掲示板に掲げることもあります。見落としのないよう、毎日一度は掲示に注意してください。

(9) 窓口別連絡先（窓口取り扱い時間：平日8時30分～17時15分）

部署名	TEL	メールアドレス	場 所
教 務 チーム	03-5978-5141	kyomu@cc.ocha.ac.jp	学生センター棟1階
学生・キャリア支援チーム	03-5978-5147	gakusei@cc.ocha.ac.jp	学生センター棟2階
国際交流チーム ○外国人留学生に関する事 ○海外派遣に関する事	03-5978-5143 03-5978-5722	ryunai@cc.ocha.ac.jp ryu@cc.ocha.ac.jp	学生センター棟3階
財務・契約チーム	03-5978-5119	keiri@cc.ocha.ac.jp	大学本館1階
施設チーム	03-5978-5125	kanzai@cc.ocha.ac.jp	大学本館1階
保健管理センター	03-5978-5156	Hp-c-health@cc.ocha.ac.jp	保健管理センター（食堂となり）
情報基盤センター	03-5978-5885		理学部2号館となり
総合学修支援センター	03-5978-2047	l-sc@cc.ocha.ac.jp	学生センター棟1階
パソコン活用室	03-5978-5354	Pc-application@cc.ocha.ac.jp Taiyo-notepc@cc.ocha.ac.jp	共通講義棟1号館1階

学生関係の窓口業務と諸手続き一覧

担 当 窓 口	手 続 名		期 限
教 務 チーム 学 部 教 務 係	履修・授業関係	履修相談、学業成績、授業時間割（休講・変更）・試験・補講	その都度
		履修登録	別に指示
		追試験願	1週間以内
		※卒業（見込）証明書	4日前
		※成績証明書	4日前
		転学部・転学科願	前年度12月28日まで
		他大学等において修得した単位等に係る認定願	その都度
	科目等履修生 研究生関係	科目等履修生・研究生・特別聴講学生受付	毎年受け付けされる期間内
教 務 チーム 教 務 係	免許・実習関係	単位修得証明書発行	4日前
		教職関係（教員免許状）（教育実習）	その都度
		そのほか資格（学芸員課程・社会教育主事）	〃
		教育職員免許状一括申請受付	〃
		教育実習履修届	〃
		教員免許状取得見込証明書発行	〃
		単位修得証明書発行	〃
	身上異動関係	住所変更・身分異動届	その都度
		休学願（復学願）	〃
		退学願	〃
		保証人変更届	〃
			〃
国 際 交 流 チ ャーム	外国人留学生関係	外国人留学生に関する事（奨学金・在留資格・証明書等）	その都度
	海外留学関係	海外留学に関する事	〃

財 務・契 約 チ ャ ーム	授業料納付	授業料に関する問い合わせ	その都度
		授業料の納付領収書発行	前期 5 月末日
			後期 11 月末日
施 設 チ ーム	施設使用	志賀高原体育運動場・館山野外教育施設使用申込書 自転車（バイクを含む）中心許可申請に関する事	その都度
情 報 基 盤 セ ン タ ー	パソコン利用 情報システム	学内でのコンピュータ利用に関する相談・回答	その都度
		お茶大アカウントに関する事	〃
パソコン活用室		パソコン活用のための学習支援・相談・回答	〃
		貸与パソコン申請受付	4 月上旬
学 生・キャリア 支 援 チ ーム	学生生活関係	各種届け出・物品貸し出し	その都度
		拾得・遺失物	〃
		掲示届け出	〃
		下宿・アパート紹介	〃
		学生証（再発行含む）	入学時（その都度）
		※在学証明書	その都度
		※学割証	〃
		通学証明書	〃
	課外活動関係	学生サークル・課外活動	
		微音祭	
		課外活動施設	
		団体設立届	その都度
		集会届	〃
		印刷物の配布、販売署名運動届け出	〃
		登山届	〃
		テニスコート利用届	〃
	奨学金・ 授業料免除・ 学資貸付関係	奨学金（日本学生支援機構、地方公共団体、学内奨学金、その他）	
		奨学生願書	掲示の都度
		授業料免除申請書	〃
		授業料徴収猶予（月割分納）申請書	〃
		学資貸付金申し込み	その都度
	寮関係	学生寮（国際学生宿舎小石川寮・お茶大 SCC）の事務	
		入寮願	その都度
		退寮届	〃
	就職関係	進路・就職相談	その都度
		就職情報・資料収集	〃
		家庭教師・アルバイト	〃
		就職内定届・就業登録票	〃
		推薦書	〃
		学生教育研究	〃
学 生 相 談 室	保険関係	災害傷害保険	〃
		心理教育プログラム（グループワーク等）	〃
		個人相談	〃
セ ク ハ ラ 等 人権侵害相談室		セクハラ・パワハラ・アカハラ等人権侵害への相談窓口	〃
保 健 管 理 セ ン タ ー		健康相談・体調管理など	〃
		※健康診断書	〃
総 合 学 修 支 援 セ ン タ ー		総合的な学修相談、学修指導などの支援	その都度

※自動発行機で発行可能（卒業証明書は見込のみ発行可能）